

子ども学の源流を次世代につなぐ

幼児の教育

[特集] 保育の「根本考察」にチャレンジ!

幼稚園教育要領が変わるとき、現場は?

[実践] こども園をつくる

「夕方の保育」の可能性を探る

[視点]

ワーキングママの子育てを振り返って

2018

夏

since 1901

第117巻 第3号

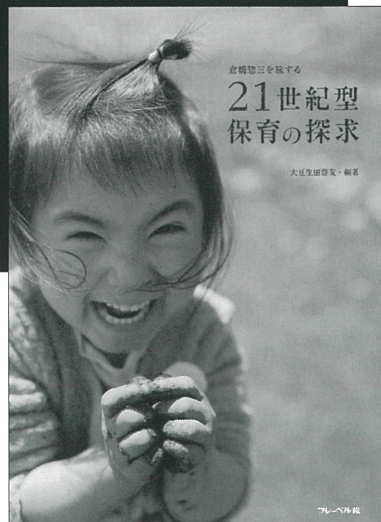
お茶の水女子大学
『幼児の教育』編集委員会

フレーベル館 110 周年企画

倉橋惣三を旅する 21世紀型 保育の探求

大豆生田啓友・編著

現代の保育実践や対談を通して倉橋の保育論に今一度立ち返り、日本の21世紀型保育を探求する一。新しい時代を切り開く、保育の新と真を見据えた実践集です。月刊保育雑誌『保育ナビ』で連載している大豆生田啓友先生の最新刊。平成30年から施行される保育の3つの法令を実施する際のヒントにもなる1冊です。



全152ページ 26×18cm
定価 本体 2,600 円＋税
109-66 ISBN978-4-577-81428-4

保育の未来を探るための対談と30の事例



秋田喜代美先生（東京大学大学院）と大豆生田啓友先生（玉川大学）の対談。乳幼児期だけでなく、学校教育全体を含めた世界的な動向と、我が国の保育の新たな方向性について探ります。



倉橋の8つのキーワード「心もち」「生活・遊び」「誘導保育」「自然・環境」「親・地域」「保育者」「小学校との接続」「多様な子ども」から、30の実践事例を紹介しています。



「はやく、

みんなに見せにいこう！」

— ピーマンの大収穫 —

幼児の教育 夏2018

第117巻 第3号

写真

子どもの情景 1

目次 まど

自分なり? 2

特集

保育の「根本考察」にチャレンジ! 6

幼稚園教育要領が変わるとき、現場は? 4

《座談会 2018》

幼稚園教育要領が変わるとき 5

《アーカイブズ》

「現場の新幼稚園教育要領」

―『幼児の教育』第八十九巻第十二号
(一九九〇年)から― 19

実践

私の保育ノート

「遊べない三人組」―三歳の遊びのはじまり

鈴木裕美 24

実践ファイル

いつもとは違う保育の場に身を置いて

中澤智子 28

こども園をつくる

―文京区立お茶の水女子大学こども園の
記録― Vol.6

宮里暁美・田島大輔

32

「夕方の保育」の可能性を探る

連載

倉橋惣三との対話 ⑥

幼児期の「二人一人」と
社会性の成長について (1)

浜口順子 38

目次

表紙の図柄は、お茶の水女子大学附属幼稚園にある
ステンドグラスの模様をデザイン化したものです。

視点

ワーキングママの子育てを振り返って

宮井真千子

42

夢のたねを見つける

松尾久美

46

文化

園文化をデザインする⑥

アウトドア気分て夏を演出！

中村紘子

50

探究

韓国解放後から一九八〇年代までの

幼児教育課程の発展過程

―カリキュラム・モデルの開発と

普及に着目して―

林志妍

61

子ども学のひろば

イベント・メディア情報・

「ナーサリーごぼれ話」

読者投稿・編集後記 他

62

まだ

自分なり？

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」を読む
たびに、「自分なり」という表現に違和感を覚える。
今回の改訂でも、そこは変更なしである（「小学校
学習指導要領」にはない）。各領域の「ねらい及
び内容」部分で、例えば「自分なりに比べたり」（環
境）とか「自分なりの言葉で表現し」（言葉）など。
そこで言わんとされているのは、素朴に幼児が自
分らしさを発揮するのを肯定的に受けとめること
と考えてよいのだろうか。しかし、引くかかる。
「私なりに頑張りました」というとき、「こんな
私ですが……」という卑下する気持ちが含まれる。
だから、人に対しての「〜なり」は気を遣う。目
上の方に「貴方なり」や「先生なり」は失礼だし、
友達に対しても、「君なりに頑張ればいいんだよ」
と云えば相手の気分を害する可能性は大いにある。
「〜なり」の語義を調べると、「相応」（『広辞苑』）
という意味の他に「不十分なものとの限界を容認す
ることを表す。」（『新明解国語辞典』）とある。新
しい「幼稚園教育要領解説」には「自分なり」が
二十九回、「幼児なり」が三十八回登場する。教
師から稚拙に見える表現であっても「幼児なり」
だから認めるという「上から」のニュアンスを感じ
るのは、私がへそ曲がりだからだろうか。（浜口）

特集

保育の「根本考察」

にチャレンジ！ 6

今から約 1 世紀前、倉橋惣三が本誌にこう書いた。「根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉の處で動いて居る。(中略)——我國の幼稚園教育界は、こんな風にして一年々々過ぎて居るのではあるまいか。」(「斯くてまた暮れゆく」大正 5 年 12 月)…… 倉橋がもし今生きていたら、現代の幼児教育界をどう見るだろう。倉橋先生、私たち根本考察できていますか？

幼稚園教育要領が 変わるとき、現場は？

昨年改訂(定)された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が、今年から同時に実施されています。ほぼ10年に1回のペースで訪れるようになったこの国家的ガイドラインの変化を現場はどのように受けとめてきたのか……30年前の改訂時を振り返りながら、新しい要領・指針の受けとめ方を考えます。

CONTENTS

座談会 2018

幼稚園教育要領が変わるとき

アーカイブズ

「現場の新幼稚園教育要領」

—『幼児の教育』第 89 巻第 12 号(1990 年)から—

座談会 2018

幼稚園教育要領が 変わるとき

宮里 曉美
高橋 陽子
松島のり子
上坂元 絵里
浜口 順子

上坂元 今回は、一九八九（平成元）年の幼稚園教育要領改訂後の時期に書かれた原口純子氏の文章（この後の19〜23ページに転載）を手がかりに座談会を始めたと思います。

今年から新しい要領・指針がまた実施されていますが、要領・指針が定期的に改訂（定）されるようになって三十年です。そのたびに現場でどんなふうを受けとめ、生かし、つなげてきたのか、これからのことも含めてお話し

していきけたらよいのではないかと思います。

今と通じるものがある

高橋 三十年前って、一九八九年という数字で見るととても昔のような感じがしますが、原口先生の文章を読むと、今と変わらない部分が多いなと思いました。

私が一番思ったのは、保育者の資質が問われているというのは、昔も今も変わらないということ。また、定員とか施設、設備が変わ

らなければ保育はなかなか良くはならない、と述べられてい

て、三十年たった今はどうなっているのかと思いました。



▲高橋陽子氏

宮里 曉美（文京区立お茶の水女子大学こども園園長）
松島のり子（お茶の水女子大学助教）
浜口 順子（お茶の水女子大学教授）

高橋 陽子（お茶の水女子大学附属幼稚園教諭）
上坂元 絵里（お茶の水女子大学附属幼稚園副園長）

最後のほうの文章で、走り回る四歳児を取り上げたところが面白い。今、本園でも四歳児がいろいろはじめていて、内にあるものを出している、といった話題が出てきたので。

それから、原口先生は、保護者に向けて幼児教育の何を、どう伝えていくか、例えば、スライドやビデオを使うと書いていて、今と通じるものがあるなと感じました。

変わること・変わらないうこと

松島 平成元年の改訂は、大きな改訂として学生のときに学びました。それまでの一九六四（昭和三十九）年に改訂された要領に、幼児教育のあり方が方向づけられてしまったところを反省して大きく変わった、という感じで受けとめていたのですが、原口先生の文章の冒頭に、要領が変わったと言っても、保育の在り方や方法が変わるわけではない、と書きだされていたのが、とても印象的です。今

も新しい体制のもとで始まるうとして、果たして何が変わるんだろう？ と思っています。大学でも学生から疑問が出ていました。要領が変わること、変わらないところもあるけれど、変えていこうとしている何かがあるんだろうなと思います。

私は、ちょうどこの平成元年に要領が改訂された後、保育を受けていた世代です。要領・指針が始まった一九九〇（平成二）年に私は保育所に入所して、年度の途中に幼稚園に転入しました。なぜ幼稚園に移ったのかを大人になってから尋ねたことがあります、母が言うには、保育所の保育が変わったようです。クレヨンを使って絵を描くとか、そういう活



▲松島のり子氏



▲宮里暁美氏

園にとって」
と書いてある
ように、そう
いう保育を大
切にしていた
園から見れ
ば、よかった

動をあまりしなくなったと聞いた覚えがあり
ます。要領・指針の改訂は、当時、保育の現
場に何か影響をもたらしたものがあつたのだ
ろうと思います。要領・指針の改訂により現
場がどう動くのか、歴史的にも関心が及ぶし、
今これからのことにも興味津々です。

平成元年改訂は、流れをつくった転換点

宮里 私は、平成元年改訂のときが幼稚園に
勤めて十年目くらいでした。いろいろ考えさ
せられた改訂でしたね。原口先生も「遊びを
通して自主性を育てる保育を目ざして来た本

と考える改訂だったと思うのです。幼児教育
のあり方が本来あるところに戻ったように思
えて、本当によかったと感じたんですけれど、
この改訂によって、放任になってしまい、保
育がだめになるのではという意見も出てき
て、私は驚きました。

高橋 私は、私立の幼稚園に勤め始めた頃で
した。公立幼稚園は、国の政策が直に影響す
ると思いますけど、私がいた幼稚園は、課題
が午前二つ、午後一つというところでした。
いろいろな園があると思いますが、勤務した
園では改訂の前後で保育に大きな変化はあり
ませんでした。

宮里 公立幼稚園は、改訂に対してしっかりと
向きあいます。何が危惧されたかという
放任になり、子どもが育たなくなるとか、先
生たちがなんにもしなきゃいけなくなるとか
ということでした。そんなこと、要領ではど
こにも言っていないですよ。「一人一人の発達の



特性に応じた指導」とか「ふさわ

しい生活の展開」とか「総合的な指導」と言っている

のに、なぜそのような誤解を生んだのかなと不思議に思いました。私自身は、一人ひとりを大事にする保育をずっと心がけて

いましたから、それでいいんだよと応援された気持ちになって、うれしい改訂でしたね。

上坂元 私はこの附属幼稚園で仕事をしていました。ちょうどこの前後に『幼児の教育』

の巻頭言を河野重男先生（当時お茶の水女子大学学長）が書かれています。河野先生が「幼稚園教育要領に関する調査研究協力者会議」

の座長をされていたので、先輩の先生たちがこの改訂をととても喜んでいました。

宮里 この改訂を受けて保育を変えたいと思う園が出てきて、附属幼稚園を参考にしようとしたという話も聞きました。

上坂元 いきなりやろうとすると、本当に出せなくなつて、それでいいのだろうか、自分たちが動けなくなつてしまうという悩みが聞かれました。この時の改訂が以後三十年の流れをつくつた大きな転換点だと、あらためて気づかされます。

小学校の学習指導要領との関連

宮里 「心情、意欲、態度」という言葉が出たのもこの改訂ですよね。子どもの内面に何が育つのか、ねらいの書き方も変わつて、その後も踏襲しているんですよね。

高橋 今年、東京都の公立幼稚園の研修会に参加させてもらったとき、無藤隆先生の講演

を聞く機会がありました。改訂について、何も変わらない、幼稚園でやっていることはそのままでもいいとおっしゃっていました。小学校の先生にしっかりと幼児教育を伝えてほしい。小学校はスタートカリキュラムの実施も含め、新しい改訂でずいぶん変わる、と。小学校は内容的に大きな変化があるけれども、幼稚園は内容的に大きな変化はない、と言われたのが印象的です。

浜口 平成元年は、小学校の学習指導要領も大きく変わり始めた時期です。一九九〇年代の初め、文部科学省が「新しい学力観」、つまり「自ら学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力などを学力の基本とする学力観」を学習指導要領の中で強調するようになった時代で、週休二日や生活科が始まりました。「生きる力」が着目されるちよつと前の段階ですね。緩やかに、詰め込みではない教育へ。幼稚園にとつて追い風が吹いてきたという環境があつた

かと思っています。

改訂を受けて現場では

浜口 6領域が5領域になったり、「人間関係」「環境」「表現」という新しい領域になったりしたことで、現場に混乱はなかったですか？
当時の雰囲気をもっとお聞きたいです。

宮里 活動としては造形表現的なものと音楽的なものをまとめて「表現」としたので、専門性の耕し方が曖昧になってしまったかなと思うところはあります。

浜口 まだ若手だった上坂元先生がその頃印象的だったことは？

上坂元 私は三年目で、先輩たちは「こちらに風が吹いてきた」と話し、新しく来た人たちは「大変なんです」



▲上坂元絵里氏

と混乱していました。それから、公開保育のときなどに、自分たちのやっている保育を変えたいと訪問されてくる先生が多くいました。思い切って今までのやり方を変えたい、どうしたらいいか手がかりを探しに来たという方がいらしたのをよく覚えています。

宮里 変わろうとするタイミングがいろいろあるけれど、この時に変えた園が結構あるんじゃないかしら。調査したら面白いと思う。より良くなろうと努力する園は公立私立の別なくいろいろあったのではないかな。今回の改訂でもそのような機運を感じます。この改訂を受けて良くなろうとしたというのは、確かにあったと思います。

上坂元 要領・指針が変わって、果たして何が変わるのかということですね。

松島 今年度後期の授業で、改訂された要領・指針を学生と読みました。幼稚園・保育所・認定こども園で内容をそろえたりと、確かに

変わったところがある。一方、保育で大事にしたいこととか、環境を通しての教育とかは変わらずに大事というところもある。より

良くしていく必要があるから改訂があると

考えると、何も変わらない、何も変えない、ということはないのだと思います。私は今現場にいないので外から見た感じでしか言えないけれど、要領・指針が変わったことで保育の現場は大きくは変わらないのかもしれない。それでも、現場の先生方の意識のところでは少なからず何かしらの影響があるのではないかと思うのです。子どもにかかわるときに重点を置きたいところや言葉掛けなど、先生方は瞬間瞬間に判断されて動いていらつしやると思うので、そこに何かしら改訂された



要領・指針が影響するのかなと思います。

上坂元 原口先生も、「問題はその解釈と運用と指導にあったのではないだろうか」と書いていらっしやいますね。

高橋 保育者の人間性は、いつの時代も変わらずに大切なんだとあらためて思いました。要領が変わったからといって、それに合わせて保育者の人間性も変えていくものではないでしょう。要領が変わっても変わらなくても、人間性を向上させて、自分を変える努力をしていかなきゃいけないと思う。何が変わっていくのかというと、子どもを見る見方であったりとか、それを誰かに伝えていくときの伝え方とかなのかなと思います。

より良い保育とは

宮里 長く保育の現場にしていると、十年に一度、改訂というタイミングに出会う。今私はこども園という場にいる。この時に、幼稚園・保

育所・認定こども園、三つそろつての要領・指針の改訂とか、その内容の特に教育の部分が擦り合わされたと聞くとワクワクします。すごく印象的な今回の改訂だと思っていますですよ。

ところで、改訂はどうして十年に一度なんでしょうね。改訂は急に行われるのではなくて、長い時間を費やして改訂作業の準備をしている。たぶん平成元年の改訂にもいろいろなことがあつたんでしょうね。

今回の改訂では、非認知的能力の部分ではお茶の水女子大学附属幼稚園の研究データ、その前の改訂ではお茶大幼・小で取り組んだ接続期の研究データも根拠資料になっています。現状と課題、そしてその解決のための実践の成果をもとに改訂が提案されている、そう考えるとすごいことだと思えてきます。改訂の根拠の部分、時代背景の部分、未来予想図の部分に今は非常に興味があります。



倉橋が「新鮮度の更新」という言葉を書いていて、一九五一年の本誌三月号の巻頭言にある言葉なんですけれど、この言葉は、私の好きな言葉です。要領の改訂の中で、「環境による教育」とか「一人ひとりを大事に」と聞くと、今まで通り、と安心してしまふ。ゆるがせにできない根本はあると思いますが、新しい提案を受けて、何か加味しよう、何が大事なのかを考えよう、というのがいいなと思います。

原口先生の言葉の中でも、これまでに大切にしてきたことを確かめつつ問いを発している。「保育は教えられない」ということや、どんな人でも「ある程度は育てていける方策を考えなければならない」と言っている。環

境による保育というものは簡単なことではないと言っている。原口先生は真髄を捉えて警鐘を鳴らしていると思う。そのことは今も課題だと思う。良い保育ってどうやって伝わるんだろう、より良い保育ってどうやって実現するんだろうということに関しては、答えが見つからないなと思います。

保護者にどう伝えるか

上坂元 保育者養成から保育実践へのつながり、幼稚園教育を取り巻く状況の大きな変化を保護者にどうやって伝えていくか、改訂という機会をそれぞれの現場で実践としてどんなふうに生かしていきたいか、という三つのテーマでもう少し話を深められたらいいかと思います。

松島 今回の改訂は、保護者の方の中で話題になっていることはあるのですか？ 実際に要領・指針を手にとられている一般の方、保



護者の方はいらつしやるのでしょうか。

宮里 課題だと思ったので、園だよりで要領・指針の改訂について連載しています。「10の姿」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」はチェック項目ではないことなど、保護者にわかりやすく伝えていく、関心をもつていただくことが大事だと思います。

上坂元 そういうことにも関心をもってもら働きかけをされているんですね。

宮里 アクティブ・ラーニングという言葉を聞くと、「乳児のうち何をやればいいですか?」という質問が来るということを聞いたことがある。アクティブ・ラーニングとか英語とか、小学校教育で導入が検

討されていることへの関心は高いようです。

上坂元 確かに、小学校の英語の影響は感じますね。幼稚園にいらした外国のお客様に子どもが話しかけたりするのを見ると、ほほ笑ましいですが。

宮里 小学校は「教科」なので、一般の人からも関心が寄せられるけれど、幼稚園は、例えば「環境による教育に今度からなりますね」なんてニュースで取り上げられないものね。

上坂元 三十年前、原口先生の記事にこのように父母を啓発していくことが書かれていて、これは現在の私たちにとっても大切なことですよ。

高橋 遊びや環境を通して子どもたちが考えたり試したりして、いろいろな力を発揮していることは、日々の掲示や各学期末の保護者会で、パワーポイントや写真を通して伝えていきます。

宮里 今の保護者は幼稚園に対して何を考え

ているんでしょうね。何を期待しているかしら？

上坂元 今日も登園のときに玄関で、三歳児の保護者が「これまであまり考えていなかったのですが、自由保育の厳しさというのが少しわかってきました」と話してくれました。こちらから保護者に伝えようとすることで保育者の理解が進むこともありますね。

変化を肯定的に

宮里 今回の改訂はこれまでとあまり変わりません、という説明を聞きます。なぜそのように言うのかしら？

上坂元 変わらないけれども変わる、と研修の場でも説明されています。

浜口 小学校に比べると幼稚園のほうは、今までの要領が現場で受け入れられているから、変わらないほうが安心する。平成元年の改訂で良いものになったという前提があつて。変

わることにしても、時代の状況に
応じて変わる、と
いう意識だから。
要領に対する信頼
度が高いと思う。
小学校のほうは、
英語が入ったり、
道徳科ができたり、
不安や反対意見が
たくさん出やすい
ように変わつてき
ている。平成元年の改訂はかなり大きい変化
だったけれど、今変わるって言つても、幼稚
園では危機意識が少ないのかもしれない。

だから、今度、「10の姿」がすごく大きい
変化で、ツツコミどころになっている。良く
読もうとしたら良く読める。悪くも読める。
まずは肯定的に受け取れば、変化を良いほう



に読める。ちよつと保育理解に近い感じの話ですが。

宮里 「10の姿」の文章を読んでいくと一つ一つの言葉が選り抜かれていると感心します。長い文章を文節で切っていくと、幼児期にこのことをポイントに置いたほうがいいということが見えてくるように思う。

例えば「(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の説明のところで、「親しむ体験」に加えて「自らの必要感に基づきこれらを活用し、」とあります。「親しむ」ってさうつと言わないで、あえて「必要感に基づき」という文章を入れたことに興味が湧きます。こんなふうに、文節で切って読み解いていくと大切なポイントが見えるように思います。

松島 今お話しくださったような内容は、園の先生方とも一緒に共有して話されたりするのですか？

宮里 日々、忙しい。でも、話さなきゃね。

「10の姿」をどう読むか

浜口 「10の姿」はどう思う？ 高橋先生は、どんな印象ですか？ 違和感とか。

高橋 一つ一つの言葉に違和感はないです。パツと見たときは、卒園までに育てるって？ と思いましたが、「育ってほしい姿」と書いてあることで、教師や園が「育てたい」とは言っていないことに少しホツとしました。

浜口 そういうふうに読んでいるのですね。

高橋 そこまで「育ってほしい」って言われているとはあまり思ってたなくて。

宮里 柔らかに捉えるのよね。

上坂元 到達目標ではないということですね。



高橋 私は、小学

校の先生にとつて、もしこれがとてもわかりやすいのであれば、活用しようと思う。



上坂元 「10の姿」を手がかりに研究会をもつとか、公開保育をするとか、さまざまに考えあうきっかけになるのでしょうか。

松島 私は、「10の姿」が到達目標ではないと説明され、何か懸念を内包していることを表に出しているようで、不思議に思うことがあります。

宮里 この点についての説明を聞いていると、小学校との接続を考える上で有効だということも説明されていました、一律に何らかの目標を定めることへの懸念も感じられました。懸念をもちながら提案しているという珍しいケースのようにも思える。

松島 告示という形で出ているけれど、試み

的なところがあるようにも思います。保幼やこども園と小学校以降の育ちのつながり、連携や接続という課題を解決するために、一つ後押しするきっかけにしたいという意図があるのかもしれませんが。それは実際動き始めたところで、保育現場の先生方と小学校の先生方、双方の現場からの声が大事なのではないでしょうか。伝えあうところで難しさがあったら、そこをより良くしていく必要があると思います。

上坂元 応答的につくられていく教育課程となれば、とてもすてきですね。

根っこを育てる

宮里 もう一つ言いたいことがあります。私が好きだったのは「社会に開かれた教育課程」という言葉です。社会に開かれた教育課程という言葉が意味することって何だろうと考え



ています。より良く生きるということだった
り、より良い社会をつくるという目標を共有
し、社会と連携するってことだったりする。
「社会に開く」というのはどういう意味なの
かしら？ 地域に開かれた教育課程をどうつ
くるかは、大きな課題なのではないかと思う。
高橋 一人ひとりの子どもが、社会に開いて
いくような教育課程、というふうに私はとっ
ていた。

ういうこと？

高橋 幼児教育
って根幹なんだ
と思う。幼児期
に根っこをしっ
かりと張って、
社会に踏み出し
たときに、どん
な社会に対して

も、自分をしっかりとって、向かっていけ
るように。それが、社会に開いていくってこ
とかな、と。

松島 生きていく上で必要な力の基礎や根っ
こを育てていく時期は乳幼児期だと本当に思
うので、その時期にどういう過ごし方をする
かということや、保育の現場での保育のあり
方は、世の中全体において、もっともっと大
事に丁寧に考えられてもいいんじゃないかと
思っています。

高橋 社会に参加できる人間とか、社会をよ
り良くしていくためのことを考えていく人間、
しかもそれが一人の考えではなく、みんなで
連携をとりながら、いろんな人のことを考え
ながら、いろんな国のことを考えながらやっ
ていけるような人に、やっぱり育ってほしい。
そのための教育を考える。

宮里 社会とはどういうことか、これは、キ
ーワード。

上坂元 「社会に開かれた」というと、原口先生の保護者の啓発というところも伝えていくのかなと思いました。

浜口 今は保護者と園が対等で、パートナーシップという言い方もしますね。

上坂元 この改訂を通してそれぞれの実践がどう変わったか改まったり、考える機会が生かされたかということは、また別の機会に譲りたいと思います。

松島 原口先生が書かれているように、改訂された要領・指針を読むことで、あらためて保育について学び、見直しの機会を得ることができました。

(二〇一八年一月二十六日)



現場の新幼稚園教育要領

原口純子

『幼児の教育』第八十九卷第十二号

(一九九〇年) からー

教育要領が変わったと言っても、遊びを通して自主性を育てる保育を目ざして来た本園にとって、保育の在り方や方法が変わるわけではない。むしろ日の当たらない時代から続けて来た我々現場の保育の実態により沿った方向で変わったことは喜びでもある。かつての六領域全盛の時代を思えばどんなに生きやすく、保育しやすくなったことか。しかしそれでは三十九年の教育要領が好ましくからざるしろものだったかと言えば、必ずしもそうではなかったと思う。問題はその解釈と運用と指導にあったのではないだろうか。子どもにしっかりと視点を置いて、子どもにとって望ま

しい保育を求め続けるならば、教育要領が変わる度に右往左往することはない。今回の改訂の中で幼稚園教育の基本が、

1、幼児期にふさわしい生活の展開
2、遊びを通しての総合的な指導

3、一人一人の発達の特性に応じた指導
となっていることは、実に日本の幼児のために同慶の至りである。

☆

教育要領の改訂にともない、説明会や様々な論説を通して、改めて保育について学び、見直しの機会を得たことは有難いことである。現在行っている我が園の保育が全体の方向としてはそう間違ったものではないと思うものの個々の活動を見直して見ると、行事にまつわる活動の問題の多いことがわかった。母の日、父の日のプレゼント製作、夏祭りのおみこし作り、運動会、生活発表会等の対外的な活動になるとたちまち子ども本位の姿勢がく

ずれて、時には子どもにはむずかし過ぎるような課題を一方向的に与えていたこともあった。

これは保育に対する父母の評価への対策でもあったと思う。しかし今や我々はもっと真剣に父母に対して幼児教育とは何か、何が大切なことをかを啓蒙していかなければならない。保育参観、保育のスライドやビデオで日常生活を紹介する会、方針の説明会、園日よりやクラス日より、個人面接を通して、園で遊んでいることにどんな意味があるか、子どもがどう育ってきているかを保護者が納得のいくようきめ細かに伝えていかなければならない。そうした上でもっと子どもレベルのできるプレゼントや運動会、生活発表会の在り方を模索しなければならない。

とかく鼓笛隊や文字や数、水泳等を教える目に見える成果の上がる保育に心を奪われがちな父母を、成果が見えにくい心情、意欲、態度を育てようとする保育に対して、やっぱ

りこの園に入れて良かった」と思わせるには、見せかけの行事ではなく、一人一人の確かな成長がなければならない。

☆

夏に園長研修があり、県の指導主事による新幼稚園教育要領の解説を聞いた後、休憩時間にある園長がしみじみと「先生方はよくわかっているのです。書かせても立派に書く言葉ではわかっているのです。でもただ一つ、できないのですよ」と話しておられた。

これまで子どもの前面に出て、活動を与え、教え続けてきた教師にとって、「ねらいや内容を押さえてそれを環境に含ませて、幼児が活動したくなるように構成する」とか、「遊びを通して成長に必要な経験を持たせる」「一人一人の充実した園生活の展開を保障する」ということは、一つ一つ言葉ではわかるが、具体的に三十五人ものクラスの子どもを目の前にして困惑するのも無理もないことである。

優良園の視察や公開保育研究会でいくつかの幼稚園を見学し、我が園を振り返って見るに、表から見た印象はどれも良く似ている。むしろそのパターンは画一的にさえ思える程である。部屋の中にブロック、ままごと、テラスの水遊びなどのコーナーが設置され、廊下やプレイルームには巧技台や踊るコーナーがある。子どもは自由に行き来して興味のある活動にとりかかるようになっていく。

以前よく公開保育で見かけた、大仕掛のセツトを作ったような保育や、子どもをさんざん練習させたような劇場ごっこ、のスタイルは影ひそめ、一斉課題活動などはどこを探しても見当たらない。

環境による保育が全国一斉に指導され、広がることは良いことであるが、その質を思うと気がかりなこと無ではない。それは何年もこの保育をしている間には、子どもを十分成長させられずに小学校に送り出した苦い

経験があるからである。保育内容や教師のかかり方が希薄で子どもが育ち切れないのは、ちようど栄養の悪い食事ばかり与えられて成長が悪いのと同じである。教育課程や指導計画、週案会議、日案、日誌とシステムはあっても、日々を保育するのは担任の裁量である。自主性を育てる保育が単に保育のスタイルとしてとらえたならこれは大へん危険なことである。

☆

かつて教師が一方的に活動を与えていた時代は、適性の有る人も無い人も、新人もベテランも同じような保育内容を持ち得たし、何年か経験を積むことによって、静かにさせ方や説明の仕方も上達するということもあったが、今日、子どもの育ちや状況を見ながら臨機応変に援助したり、環境を変えていったりする能力はかなり適性を要することである。子どもの育ちは担任の力量にまかされ、教師

の力の個人差がそのままクラスの子どもの育ちの差になってしまふのである。保育力は経験の差というより適性や人間力（魅力、感性、創造性、表現力等）の違いによるように思われる。若く経験が少なくても、子どもと呼吸を合わせる能力にたけた人は、労することなく生き生きとした学級経営をし、子どもをしつかり育てる。一方何年経験があっても適性に欠けた人は、一生懸命努力するのだが、仲間関係も育たず、バラバラなクラスに苦勞し、子どもの力も伸ばし切れなかったりする。保育者養成機関は安易に就職をすすめることなく、二年間の間に幼児教育が自分に向いた仕事かどうか見極めさせることも大切だと思う。保育は教えられないものである。保育原理も保育内容も、細々したやり方等を教えることはできるが、感性や人柄や、人としての魅力を含めた保育そのものは教えられない。

☆

今後はともかくとして、現状では、保育は、ずばぬけた適性のある人や、情熱のかたまりのような人や、いささかも努力をおしまぬ人にしかできない仕事になっては困るのである。適性の無い人や、鈍感な人や、怠惰な人も大勢保育者になっている現在、そういう人でもある程度は育てていける方策を考えなければならぬ。

良い保育は、これまであまりに保育者の心掛けや努力におしつけすぎてはいないだろうか。一人一人を大切にする保育や個性を尊重する保育をするためには、一クラスの人数を二十五名程にしなければ普通の保育者にはゆき届かない部分がでてくると思う。三十五人も四十人も四歳児が部屋や廊下を自主的にかけまわっては安全確保だけでも手いっぱいになってしまう。

さらに環境による保育ということで、保育室の机を片付け、畳のコナーを入れたり、

つい立てを立てたり、大型箱積木を入れて子どもが自主的な活動を促そうとするが、昼食時になるとたちまち室内を片付けて、重いデコラ貼りの机を十脚は出さなければならぬ。お弁当はともかく、給食にはどうしても机がいるのである。環境による保育を実施するためには、本来食堂があるか、物を片付けなくても机の出せる広さの保育室が用意されなければならない。現状では担任教師の労働は日々大へんなものである。

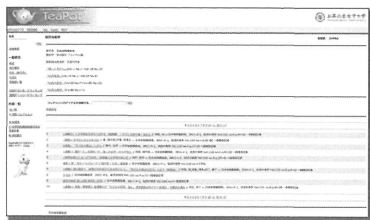
定員も施設、設備もそのままに、保育者にだけ努力せよというだけでは保育はなかなか良くはならないように思う。

(つくば市立桜南幼稚園)

幼児の教育 バックナンバーを WEBページで公開中

「幼児の教育 TeaPot」で

検索



<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/52377>

明治34年発行の創刊号から、現在、平成27年発行の第114巻第1号までご覧になれます。

「遊べない三人組」 〜三歳の遊びのはじまり

鈴木裕美
(幼稚園教諭)

年少組（三歳児）の四月といったら、それはもう大騒ぎで、「ママがいいの」「せんせい！せんせい！」「エーン！」といろいろな声が響き、保育者も子どもたち一人ひとりが一日でも早く幼稚園で安心して過ごせるよう必死である。

そんなふうにとタバタした中、A子は、B子、C子といつも一緒にいるようになっていった。三人は登園すると、そろって園庭へ出かけ、タイヤブランコやジャングルジム、滑り台などの固定遊具で遊んだり、園庭を走っ

たりして一緒にいることを楽しんでいた。

A子は五月生まれで、小学生の姉、兄があり、しっかりした印象の女兒である。幼稚園に入園する前に保育園に通っていたこともあってか、身の回りのことはたいてい自分でき、保育者を頼る機会が少なかった。

年少組の一学期は、友達とのかかわりよりも、保育者との信頼関係を築き、自分の好きな遊びやモノに出会うことを大切に考えているが、この三人に関しては、友達とかわわっ

鈴木裕美（すずき ひろみ）

学校法人駒場けやき学園駒場幼稚園教諭。

ていることが多く、好きな遊びやモノに出会うというところへのアプローチが難しかった。

B子、C子にとって、A子はお姉さんっぽい雰囲気、一緒にいることがうれしい存在のようであったし、A子は、B子とC子が自分のそばにいてくれることで安心している様子であった。

三人の中でお姉さんの存在のA子は、保育者が、砂場で泥んこのお料理を作ったり、保育室でおままごとをしたり、いろいろな遊びに誘っても、「汚れるからいや」「やらない」「もうおわりにする」と言ってなかなか楽しめずにいた。

B子、C子も、「わたしも！」とA子について行くことが多かった。

「遊べない三人組」というのが、五月、六月

と保育者間でもよく話題に挙がっていた。

私は、入園して間もない今は遊べなくても当たり前、それぞれのありのままの姿を受けとめようと思う反面、このままではずっと遊べない三人組になってしまうかも、と少々焦りも感じていた。

担任としてどうやって一人ひとりと向きあっていくのか、『遊び』とは何か、三歳児にとつての遊びとは何か、三人にとつての遊びとは何か、いや一人ひとりにとつての『遊び』を考えなくてはいけないのではないか……悶々としていた。

一学期後半になっても、三人は相変わらず一緒にいて、それで安心していることが多かった。

しかしある日、A子よりも先に園庭に出て

いたB子とC子が、二人でバケツの中に土を入れて「ごちそう作ってるから食べに来てね」と楽しそうにしていた。保育者がごちそうを食べに行くと、それがうれしくて、繰り返し楽しむ姿があった。そこに後からやって来たA子が「わたしはやらない」とB子、C子に言った。しかし二人には届かず、一人になったA子は途端に不安そうになった。

三人で以前と変わらず一緒にいる日もあるが、B子、C子は、少しずつ幼稚園での遊びの楽しさに気づき始めている様子がうかがえた。

一方A子は、日に日につまらなそうな表情になっていった。

夏休みを挟んで二学期。

「〇〇のカードのゲームでね、いろんなかわいいお洋服とかの絵が描いてあるの」。小学生の姉と一緒にしたカードゲームの話を楽し

そうにしてくれていたA子。

「面白そうね。それ、幼稚園でも作れるかな」と私が提案すると、A子は「えー、できるかなあ」とうれしそうな顔をした。

私は、A子の好きなことを探り、寄り添うことを大切にすることから始めていこうと思った。

遊びとして長続きはしなかったが、A子は次第に私を頼ってくれるようになり、甘える姿も見せられるようになっていった。そして、A子は、一学期ほどB子、C子に頼らなくなってきた。

私は、あらためてクラスの一人ひとりとのつながり、関係を見直していくことにした。一学期にしっかりとつながりができている子は安定してきているし、まだまだな子はどこか不安を残し、遊びに集中できていないように感じた。A子は当然ながら後者に当てはまった。

二学期半ば頃。

「病院ごっこがしたい！」という友達とA子は意気投合し、数名の友達と一緒に病院ごっこを始めた。「看護婦さんは白い服を着て、帽子をかぶってるよ」「お薬を作ろう」「ベッドを作ろう」と、A子からもいろいろなイメージが出てきて、保育者の手を借りながらイメージを形にしていくなかで、友達とのやりとりを楽しむ姿が見られた。

やっとな、やっとな、A子が楽しそうに、生き生きとした表情を見せてくれた。この時の保育者たちのにんまり顔といったら！待っていてよかった！A子の変化をみんな嬉し、うれしく受けとめた。

A子やB子、C子の姿を通し、三歳の遊びのはじまりについてあらためて考える機会をもらった。保護者の中には「お友達と一緒に

ら安心」と考えている方も多く、その意識が子どもにも伝わり、友達に依存してしまう子も少なくないのではないだろうか。人（友達）と一緒にいることにこだわり、その存在に頼っているうちは、なかなか『本当の遊び』に出会えず、どこか不安感も抱えたままである。

遊びって？ 自発的な遊びって？ なぜ『遊べない』と保育者は捉えるのだろうか？

保育者として、いろいろなことに思いを巡らせ、悩みながら、自分に問いかけながら、子ども自身の育とうとする力を信じて待ち、支えていくことの大切さにあらためて気づかされたように思う。

A子はやっとな遊びを通して自分自身を表現し始めたばかり。この先、遊びの中で自分と向きあい、他者とかかわり、どんなことを学んでいくのか……とても楽しみである。

いつもとは違う保育の場に身を置いて

中澤智子

(保育士)

私は、二〇一七年九月十九～二十一日の三日間、熊本市のH保育園にお邪魔させていただきました。前年の秋に「熊本市子ども女性支援ネットKCCWによる社会的保育実践者派遣プロジェクト^註」として本園の保育士二名が伺ったご縁で頂いたお話です。

今の勤務先、お茶の水女子大学附属いずみナーサリー（以下ナーサリー）で保育に携わり（非常勤も含め）十五年、保育者としてはまだまだ道半ばですが、長くいるからこそ謙虚さを忘れてはいけないと思いがらやって

きたつもりでした。しかし、今回の熊本行きで、それがいかに実践できていなかったかということに気づかされました。

保育者として三日間、他園の保育に入るという経験は初めてのことでした。受け入れる側のH保育園の先生方にとっても、内心、緊張感や構えるところもあったことと思います。が、そのようなそぶりはまったく見せず、温かく迎えてくださいました。実習生でも見学でもなく、他園の保育士を受け入れ、一緒に保育をするということは、保育の中ではあり

中澤智子（なかざわ ともこ）
お茶の水女子大学附属いずみナーサリー保育士。

そうで、なかなかないことだと思っています。

H保育園では、○歳児クラスに入ることになり、人見知りが強いこの時期に、知らない大人がその場にいるということは、子どもたちにも負担が大きいのでは……と一抹の不安もありましたが、それは杞憂に終わりました。知らない人が入ったからといって揺らぐことのない信頼関係や安心感が、子どもたちと先生の間にしっかりと築かれていたからです。

H保育園で出会った子どもたちに対して、
〃ここにいさせてもらっていいですか〃
こなら大丈夫かな〃と、その子たちの声にならない声や思いに耳を傾けようと、神経を研ぎ澄ましました。先生方に対しても同様で、
〃この人はどんな思いで、どんなスタンスで保育しているのかな〃
この場面ではどうするのか〃とさりげなさを装いながらも、頭の

中はフル回転でした（装っていると思っているのは自分だけで、周りの先生方も子どもたちも、そのことを了解して受け入れてくれていたのだらうな……と後になって思います）。

ナーサリーで無意識に日常のこととしてやってしまっていることを一つ一つ、心の中で確認したり問いかけたりしながら、自分自身の居方や所作を考えると、作業を意識して繰り返す中で、保育に携わる者として忘れてしまっていた謙虚さを、奥の方から引っぱり出してくる感覚に近かったと思います。

「心を傾ける」「寄り添う」という言葉は、保育の中でよく使われ、私自身使っていました。ナーサリーの日常の中で、できていなかった自分に思い至りました。

その人のことを知りたいと思うところから、保育は始まります。知っているつもり、

わかったつもりでいて、本当のところは見えていなかったり、わかっていなかったりすることもたくさんあるということ、日々、考えているようで、いかに思考せず、日常の中に身を置いているかを思い知らされた三日間でした。もちろん、たった三日間でわかったとは言えませんが、ナーサリーに戻ってからの、保育に入るときの心のもちようにつながっているように思います。

いつもの日常だけでは気づき得なかったこと、思い至らなかったことを、立ち止まって考える、今までの保育を振り返る、そしてこれからの保育を考える貴重な機会となりました。

今、就学前の子どもが通う施設は、幼稚園、こども園、保育園、公立園、私立園（学校法人・社会福祉法人・企業）、認可園、認可外、……といういろいろあり、規模も保育時間も理念や方針も本当にさまざまです。「教育」「保育」

と言葉は違えど、子どもが幸せに自分らしく健やかに育つこと、その育ちゆく力を信じ、育ちを保つことが、子どもの育ちに携わる大人の使命であり責務であることに変わりはありません。

今回は、前述のご縁で、東京から遠く離れた熊本の保育園と交流させていただきましたが、遠い近いの距離ではなく、保育に携わる隣りあう人たちが、これから育ちゆく子どものことを思いながら、少しずつでも人事交流ができるようになっていくといいなと思うようになりました。

園が大切にしていること、築き上げてきた文化や伝統、背負っているもの、地域性……などそれぞれ違いはあっても、子どもの育ちを支えるという根っこところは同じです。研修会などで、他園の実践から学び、それを自園の保育に生かすというところから一歩踏

み込んだ交流ができると、新しい何かが生まれるのではないかと思います。それは目に見えるものでも、すぐに結果が出るものでもないでしょうが……。

もちろん、どこの保育現場も忙しく、人手不足で手いっぱい。それでも子どもにとってより良い保育を目指し、模索しながら一日一日を乗り切っているような状況の中、他園に保育者を一名派遣したり、交換人事のようなことをするのは、一見無謀なことかもしれません。本来子どもが育つ場は安心・安定の場でなければならぬところを、一時期、そうでなくしてしまう危険性もあるわけです。けれども長期的に見ると、揺らぎの中で気づくこと、見えることがあるようにも思うのです。揺らぎながらも、揺らぐだけでなく、揺らぐ中でその時々での着地点を見つけ、揺らいだ分、少しずつしなやかに、おおらかになつて

いくような感覚というか手ごたえが、ナースリーの中にもあるような気がします。

今、目の前にいる子どもたちと向きあい、子どもの思い、そして一緒に保育をする同僚の思いに心を寄せながら、保育をしている人と人が、園と園が、少しずつさまざまな形でつながっていけるような道筋を見つけていくといいなと思っています。

注

被災地の保育園へ保育者を派遣し、現場保育者の負担軽減、子どもが臆せず遊べる機会をつくることなどを目的として、現地熊本で立ち上がったプロジェクト。立ち上げからプロジェクトにかかわる塩崎美穂氏（日本福祉大学准教授）によれば、「保育の果たす役割がわかっていて、身体ひとつで保育ができる。すでにある価値観（生活や保育）を否定しない・親子及び子どもと保育者の関係への支援ができる」ことを参加の要件とする。

リポート

こども園をつくる

—文京区立お茶の水女子大学こども園の記録—

Vol.9/「夕方の保育」の可能性を探る

宮里暁美・田島大輔



長時間保育のニーズが高まる中、認定こども園における「教育時間外の保育」や幼稚園の「預かり保育」を各園ではどのように行っているのでしょうか。教育時間の保育とは区別し「家庭的な雰囲気ですぐ」と称されているものの手探りの状態のように思われるこの時間帯の保育を、本園では「夕方の保育」と名づけ、開園以来実践と研究を重ねています。平成三十年二月十八日に実施した第二回お茶大こども園フォーラム第五分科会においても、「夕方の保育」をテーマとして熱心な討議を行いました。本園の取り組みについてまとめます。

本園の課題や可能性と取り組みの方向性

夕方の保育をどのようなイメージで考えていくのか、話し合いをする中で明らかになったことは次の点です。

- 異年齢のかかわりを大切にする
- 地域社会で行われていた遊びの再生

宮里暁美（みやさと あけみ）
文京区立お茶の水女子大学こども園園長。

田島大輔（たじま だいすけ）
和洋女子大学人文学部子ども発達学科助教。
文京区立お茶の水女子大学こども園 元保育士。

○さまざまな人やものとのつながりを生かす
○日暮れから夕暮れへの流れに沿う

これらのことを実現するために、まず本園が抱える課題を整理し、その解決方法を考えあいました。以下の二点です。

課題1…教育時間の保育とそれ以降の保育を同一のスペースで行う

さまざまな園を視察すると、夕方の保育を別スペース（別棟や別室）で行っている園によく出会いました。スペースを変えることで保育内容が変えやすくなりますが、スペースに限りがある本園では、同一のスペースの中で違いをつくる必要がありました。

解決策…夕方の保育の場に特色をもたせる

・駐輪スペースの遊び場化

こども園玄関前の駐輪ス



ペースを十五時半から一時間ほど、遊び場として活用してみました。路地裏遊びのような雰囲気になり、子どもたちも喜んでいました。

・二階のスペースを狭める

子どもの数の減少に合わせて、活動に使用するスペースを少しだけ縮小してみました。ついたてを置くことで「今はこちらで」ということを伝えていきます。

・プランへの子どもたちの参加

夕方の時間にどのようなことをしたいか、子どもたちに聞く機会も設定してみました。夕方も散歩に行きたいという声を受けとめ、散歩に出かけることもあります。

課題2…担任が教育時間外の保育も行う

教育時間外の保育を専任の保育者が担当する園があります。非常勤保育者の場合もありますが、常勤保育者が担当し教育時間の保育とのつながりを考慮しながら保育を構想する園も多く見学し、望ましい例と感じました。

しかし本園ではその方法はとらず、学級担任が時間外の保育も担当することになりました。

人的配置のためやむを得ずということもありますが、積極的な意味で教育時間外の保育を考えたいという思いも根底にありました。そのようなあり方の中でより良い夕方の保育を構築するために工夫を始めました。

解決策…夕方の保育を構想する担当者をおく

・夕方の保育のコーディネーター制を導入

学級担任群（四、五歳児担任四名）の中から一名が中勤務（九時三十分～十八時三十分）となることで夕方の保育をコーディネーターする役割を担えるようにし、午後勤務の非常勤職員や他の担任と連携して保育を進められるようにしました。

・夕方の保育の計画や振り返りの実施

緩やかな計画立案と、子どもの様子を出しながら振り返りを行うことで、夕方の保育の可能性を探っています。

・見えてきた可能性

日暮れ頃からは室内でゆっくり過ごすようになります。子どもの数が少しずつ少なくなっていく十七時以降の保育では、そこに訪れる大人とのかかわりに可能性が感じられます。迎えにきた保護者や祖父父母の方が遊びの続きに少しだけかわったり、大学生のボランティアが遊びに来たり、多くの可能性がありそうです。

（宮里暁美）

夕方の保育の実際

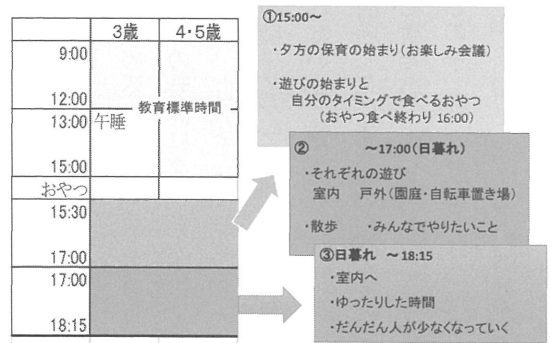
―夕方の保育を担当して見えてきたこと―

平成二十九年度一学期、夕方の保育のコーディネーターを担当することになりました。保育者間で話しあい、試行錯誤を重ねながら、次のような取り組みを行いました。

1 試行錯誤を支えあうチームの構築

まず、保育者同士がイメージをどのように

夕方の保育の層のイメージ



実現するか、考えあい共有しあうチームの構築から始まりました。夕方の保育の各々のイメージを実現するために何をしたらよいのか議論する中で内容を深めていきました。時間ごとに変わる子どもたちの姿から、それを色として捉えることにより基本の流れをイメージ化し、実際の夕方の保育の基本的流れとして構築していききました(左図参照)。

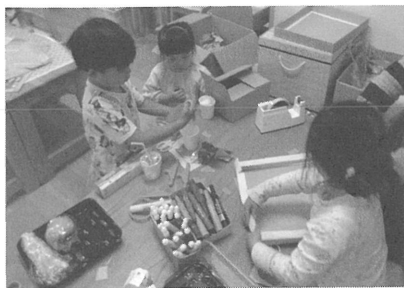
職層や立場の違いを大切にしつつも、イメージという曖昧でさまざまな捉え方のあるものだからこそ、意見を出しあい考えることを大切にしました。実際に保育をしながらそこで疑問に思ったこと、自分はこう感じたというそれぞれの感じ方を大切にして伝えあつたことにより、チームとしての一体感が生まれできました。このように、少しずつイメージが具現化されてきました。

2 時間帯により見えてくる子どもたちの姿

夕方の保育を考えていく上でも、一日の保育の流れ、連続性を意識して考えていく必要があります。本園では「どの時間帯の保育にも大切な意味がある」と考え実践しています。保育者間で語りあう際にも、具体的な子どもたちの姿を出しあうことを大切にしています。

〈夕方の時間を選んでじっくり遊ぶM児〉

M児(五歳児)はおやつ時間が終わると



教材庫（空き箱や空きパックなど廃材が置いてある場所）に行き、素材を大量に選り出し、製作を始める日が続きました。毎日のように、なぜかその時間になると大量にものを作り始めますが、自分で黙々と作るというよりも、保育者にアイデアや助けを求めるという姿が見られていました。

保育後、このようなM児の姿について保育者同士で話しあいました。「教育時間のときに制作ができるように声をかけたほうがいいのか」「満足していない部分があるのではないのか。担任がもっとかわったほうがよいのでは」という意見も出ましたが、M児の姿からは、この時間帯を選んでいるのではないかという思いもあり、まずM児のやりたい気持ちを大切にしていこうということになりました。

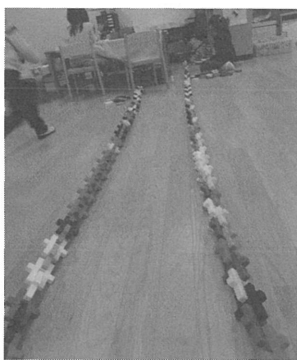
保育者がじっくりかかわっていくと、「本物に近いものを作りたい」というM児の願いを聞くことができました。本物に近いものをじっくり落ち着いて作りたいからこそ、人の少なくなるこの時間を選んでいたのかもしれない。

その後のM児は、より精巧なものを作ることに没頭し、電車や飛行機など家庭をも巻き込んで数々の作品を作りました。今度はそんな姿に憧れをもった三歳児の女児と一緒に作ったりする姿も見られました。そこでは保育者を頼りにしていたM児ではなく、保育者と共に行った経験をもとに、女児に教えている姿が見られました。

〈子どもの数がだんだん少なくなってくるからこそ始まる遊びやかかわり〉

三学期、子どもたちの間でこんな会話がよく聞かれています。

「今日夕方までいる?」「おやつ食べた後で○



○しようよ」と誘いあっている姿です。夕方に残るのはこのメンバーということがだんだんわかってきて、それなら○○をしたいということを考えているようです。子ども自身が見通しをもって過ごしているように感じられます。

左の写真は、十七時過ぎ、だんだんと人が減りだした頃に始まった遊びの様子です。ブロックをつなげて遊んでいた子どもが、互いに作っていたものをつなげて長くし始めました。どれくらい長くできるかということを比べつつ、遊びつつ、試しています。この遊びの背景には、人が減ってきたからこそブロックがたくさんあり、スペースも広々していたということがあったと思います。

異年齢同士のかわりも大切にしてきました。本園はオープンスペース

スの保育なので、教育時間内の保育でも異年齢の子ども同士の出会いは豊富にあります。基本的にはクラスごとの活動が中心になります。一方、夕方の保育では少人数の保育になりますので、さまざまな年齢の子どもたちの出会いの機会が増え、一緒に遊んだり知らないことを教えてもらったりして、親しみや憧れを抱く機会にもなり、子ども同士の関係が広がっていくことを期待しています。

〈今後に向けて〉

子どもたちは登園から降園までの時間の中でさまざまな経験を重ねています。夕方の保育においても、一日一日、その場その場で違う姿を見せる子どもたちの具体的な姿から考えていくということが重要だと考えます。

これは夕方の保育の中で見えてきたことですが、保育の原点ではないかとも感じています。これからも試行錯誤しながらこの時間について考えていきたいです。（田島大輔）

倉橋惣三との対話⑥

幼児期の「二人一人」と社会性の成長について(1)

浜口順子

(大学教員)

幼稚園教育要領の「二人一人」

昨年、十年ぶりに幼小中の教育要領・学習指導要領改訂版が告示され、それぞれの段階で育まねべき「資質・能力」が一貫性のある形で示されるようになりました。幼稚園教育要領では、新しく十項目の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されたことが話題になっています。

ご存じの通り、平成元年の幼稚園教育要領には、倉橋先生の考え方が大きく反映されたといわれ、それ以後およそ十年ごとにその時代の要請に合わせた修正が施されるようになりました。しかし、環境を通しての教育、子どもの自発的な活動としての遊びを中心とした指導などの基盤的な考え方は、これまで通り継承されています。「環境」「遊び」「自発性」など現在の幼児教育の根幹となる概念について、先生の戦前の著作から学ぶことができますが、今回はその中でも独特な「一人一人」という語について、先生と対話しながら考えたいと思います。

幼稚園教育要領の中の「一人一人」という言葉は、数回登場しますが、例えば次のようなくだりがそうです(傍線筆者)。

・「幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること」(第1章 総則、第1-3)

・「幼児の生活は、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ、安定していく時期から、……」(同、第3-4)

・「指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、……」(同、第4-4)

ここで意図されている「一人一人」は、保育者が子どもをその子自身として尊重し、他の子どもと比べてたり集団に適応させたりするのではなく、一人の人間として全体として(ホーリスティックに)かわるという意味に読むことができます。

「一人一人」と「個人」の違い

「個人」という語は英語で individual といい、これ以上分ける (divide) ことができない、という意味を内包しています。つまり、集団や社会を分けていくと最小単位として残るのが、個人であるということです。自分の属している集団や社会を構成し、適応しながら責任の一端を担う存在として個人はあります。それに対して、「一人一人」は一個の人格としてすでに意味をなしていて、英語でいえば「人格」の person に当たるのではないのでしょうか。一個の人格、十全な存在として周囲から認められることが存在の基盤となります。赤ちゃんから幼児期は、この「一人一人」がしっかりと認められ、それによって生命と安全が守られ、安心して生活することができそうです。しかし「一人一人」として認められることは、乳幼児期に限らず、より社会的な自己発揮が大き

く求められる児童期、青年期、ひいては老年に至るまでその成長に応じた必要性があるはずだ。

小学校学習指導要領の「一人一人」

私はかねがね、この「一人一人」というワードが、日本の幼児教育の特徴をよく言い表していると考えています。でも、昭和三十九年告示版の幼稚園教育要領では一回も使われていないので、平成以降の幼稚園教育要領の特徴だとも言えるでしょう。

十年前の小学校学習指導要領では、「一人一人」という語はほとんど使用されませんでした（2回のみ）。しかし、今回の改訂によって、前回の三倍にあたる6回も「一人一人」が登場するようになったのです。どういう文章で使われているのか次に抜粋してみます。

- ①「児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、（略）全ての大人に期待される役割である。」（前文）
- ②「また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童の発達を支援すること。」（第1章総則、第4-1）
- ③「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」（第2章各教科、第1節国語、第2〔第3学年及び第4学年〕）
- ④「学習内容の定着を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、児童の特性や生活体験などを把握し、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に

努めること。」(同、第8節家庭、第312)

⑤「一人一人のキャリア形成と自己実現」(第6章特別活動、第2「学級活動」21(3))

⑥「学校生活への適応や人間関係の形成などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング(教育相談を含む。)の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。」(同、第312)

この中の、国語の読解にかかわる③が、十年前の学習指導要領で「一人一人」が2回使われていたうちの一つです(もう一つは、教科「社会」にあった「環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮する」という文でしたが、この部分は今回の改訂で「自分たちでできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する」と変わりました。東日本大震災を経てからの改訂だからでしょう。それぞれが実際に行動することを強調するようになったということだと思います)。

今回の小学校学習指導要領の「一人一人」は、まず、二十一世紀社会に必要な「確かな学力」「資質・能力」をもつ者として描かれ(①、⑤)ています。またそのような人を育てるために、学校の教師たちはカウンセリングマインドをもつて(②、⑥)、絶対的評価に根ざしたアプローチ(④)を通して指導を行うこととされています。この文脈をさかのぼると、かつて倉橋先生が、幼児を「横に」見るときは「一人一人」が絶対的な基準になることを明言されていたことに思い当たります。幼児教育の特徴がボトムアップされているように感じるのですが、いかがでしょうか。

— 続く —

ワーキングママの子育てを振り返って

宮井真千子

(企業役員)

私は、一九八三年にお茶の水女子大学家政学部（現生活科学部）を卒業後、松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）に入社しました。時代は、男女雇用機会均等法施行前。女性は結婚退職がほとんどでしたが、仕事を始めると予想外に仕事が面白く、結婚、出産、育児を経験しながら仕事を続け、最終的にはパナソニック株式会社で初めての女性役員にまでキャリアアップしました。今日はそのキャリアアップをしながらも格闘してきた私の子育てを振り返って思うところを述べてみたいと思います。

私は、結婚後なかなか子宝に恵まれず、五

年が過ぎた頃、コウノトリがほほ笑みました。天使のような娘の笑顔を見ながらこの上ない幸せを感じる毎日。母親を頼って必死に生きている娘がいとおしくて、何があってもこの子と生きると自分に誓いました。待望のわが子でしたので、この子を置いて仕事を続けられるのか悩みましたが、八か月で子どもを保育園に預け、私も職場復帰をすることになります。

子どもが一歳を迎えたとき、主人が神戸から横浜に転勤になり、一人で育児をするようになります。とても不安だった私を支えてく

宮井真千子（みやい まちこ）

森永製菓株式会社取締役（執筆当時）。

1983年パナソニック株式会社入社。同社初の女性事業部長、女性役員を歴任。2014年同社役員を退任。

れたのが保育園でした。娘の通っていた保育園は私立の認可保育園でしたが、朝は七時から、夜は延長保育の希望を出せば八時まで預かってくれました。保育園の先生方は、私が八時ぎりぎりのお迎えになっても、「お仕事お疲れ様でした」といつも笑顔で迎えてくれます。嫌な顔をされたことは一度もありません。このように、仕事が忙しいながらも保育園に助けられて、私は卒園まで子育てを楽しみながら過ごすことができました。

娘が保育園の年長のときに、私は大阪に転勤になり、娘の卒園を機に転居することになりました。娘は仲良しの保育園のお友達と別れ、見ず知らずの土地で小学校に入学することになります。

私の子育ての苦労はここから始まりました。

小学校入学の事前説明会で、準備物の多さに驚き、しかも、お母さんの手作りで、とい

うようななんとも言えない雰囲気を感じ、働いているお母さんを前提とした保育園との違いに直面します。PTAの会合はもちろん、授業参観も家庭訪問も平日。すでに管理職になっていた私は、仕事との両立に慌ただし毎日を送るようになります。クラスの中でもフルタイム勤務のお母さんは少なく、保育園のときのようなママ友ネットワークもなくなり、仕事が忙しかった私はおのずと学校から疎遠になっていきました。

娘も学童保育が始まり、放課後、小学校近くの児童館に通うことになります。六時までの施設でしたので、それ以降はピアノやお習字の習い事でつなぎ、必要なときにはベビシッターさんに来ていただいて、なんとかやり繰りしてきました。社会はまだまだ働くお母さんに優しい現実を痛感する日々でした。

小学校で待ち受けていたもう一つの大きな

出来事が、中学受験でした。

教育熱心な地域でしたので、早い子どもは小学校低学年から塾通いが始まります。クラスのお友達の多くが通っていたこともあり、娘も小学校五年生で塾に通うようになりました。

ちょうどその頃、私はパナソニックで初めての女性事業部長に就任することになります。事業部長という立場は男性でも超多忙。帰宅が深夜になることも多く、頻繁に海外出張もありました。こういう状況ですので娘の中学受験は母親として何もしてあげられなかったのですが、娘の頑張りでなんとか合格を手に入れた、本人が希望する私立女子中学校に入学、憧れの制服に身を包み、新しい生活がスタートしました。

しかしながらこの中学校で、子育ての一番の苦勞が待っていました。

娘は中学三年生のときに、体調を崩し入院を繰り返すことになります。娘は働いている私に迷惑をかけてはいけないと思い、我慢をしていたのです。ある日、学校から体調不良で呼び出され、「どうしてお母さんに言わなかったの？」と聞くと、「だってお母さん、仕事忙しいから」という、思いも寄らない言葉が返ってきました。娘に要らぬ心配をさせていた自分がなんてダメな母親だったのかと思ひ知らされ、「何があってもお母さんにとって一番大事なのはあなただから」と事あるごとに伝え、それからは母娘の会話が増え、娘は私に学校での出来事などをよく話すようになりました。

娘の病気は投薬治療が続いたものの、幸いに重篤なものにはならず、大学受験にも臨み、この春から本人の希望通り、食にかかわる仕事に就いています。

これまでの子育てを振り返って思うのは、

保育園の頃よりもむしろ小学校以降のほうが苦労は多かったということです。働くお母さんが、手のかかる幼児期を乗り越えて子育てが一段落したと安心してしまいう時期が、実は一番大変な時期ではないかと思うのです。

「スクールカースト」「中二病」等の言葉に象徴されるこの世代特有の閉鎖性、LINEやツイッターなどSNSでの心無い誹謗中傷。豊かな時代といわれますが、子どもたちを取り巻く環境はあまりにも過酷です。私たちが育ってきた環境とはまるで違うのです。自分たちの経験が役に立たないのが現代の子育てかもしれません。加えて、働くお母さんに優しい社会ではない現状も負の力を与えてしまっているようにも思います。女性の就労改善の対策として待機児童の問題がクローズアップされますが、働くお母さんにとっては、幼児期以降の子育てにも、時代の変化がもたらす出口の見えない困難さがあるように思います。

最後に、少子化時代の母親の多くは「子育て若葉マーク」です。子どもの成長の段階ごとに何に気を配りどうすればよいのか、経験も知識もなく悩むことが多いのではないのでしょうか。仕事は短期間で客観的な結果が出ますが、子育てはそうはいきません。若葉マークの母親にとって必要なときに必要な支援や情報が得られる社会であってほしいと思いますし、本来楽しい子育てが悲惨なものにならないように、時代の変化を反映した社会システムの構築も必要であると思います。

人生100年時代の到来を迎え、社会は想像以上のスピードで変化しています。幼保一元化も叫ばれて久しいですが、なかなか実現しない現状に鑑み、そんな悠長なことを言っている場合ではないのでは、と思う今日この頃です。

夢のたねを見つける

タイとの出会い

夢のたねを見つけた気がしたのは二十歳のときでした。当時、学生だった私は、初めての外国であるタイで、山村の暮らしののびやかさに心打たれ、子どもがこれだけ安心して過ごせる空間が日本の子どもたちにもあったらいいなあと思ったものでした。地域で中学生にかかわる活動をしていた私は、子どもが生き生きと過ごしているように見える世界の存在に衝撃を受けたのです。その時のほんやりとした願いのような想いが、私にとっての

「夢のたね」でした。

それから、はや二十年、現在はタイで子どもにかかわる大人を応援する活動をしています。タイ人の仲間二人と出会い、二〇一三年に「マレットファン（夢のたね）」というNGO団体を設立したのです。先生や保護者に対して研修、交流の場を提供したり、絵本の普及活動をしたりしています。

今回は日本人である私がどうしてタイの仲間と共に活動しているのか、また、私たちが事業の対象とする、タイの子どもにかかわる大人の状況について紹介させていただきます。

松尾久美

（団体代表）

松尾久美（まつお くみ）
タイ教育支援 NGO マレットファン（夢のたね） 共同代表。
兵庫県尼崎市出身。2004 年よりタイの NGO 活動に参加、
2013 年に当団体を設立し今に至る。

視点の豊かさは優しさ

まず、共に活動する仲間の名前はムアイとギップです。二人とも、タイ最大のスラム「クロントイ」という地区で生まれました。高校に通う頃、当地区で支援活動を行っていた日本のNGOの活動に参加し、他のスラム地区や地方農村、さらに少数民族の子どもたちと絵本や人形劇を通して触れあうようになりました。



▲（左から）ギップ、松尾、ムアイ。

す。自分のように困難な境遇にいる子どもたちでも、きっかけさえあれば、自分の好きなことに会って努力していけるのではないか、そのきっかけづくりをしたいとこの活動を選んだそうです。

私が二人と出会ったのは、彼女らと同じ団体に参加することになったからでした。二〇〇四年末、タイ南部で起こった大津波の被災地支援で二年間ほど共に生活をしながら、子どもが安心して過ごせる居場所としての図書館づくりに没頭しました。活動を通じて、二人の物腰の柔らかさ、子どもたちの心を自然にほぐす力に、感心させられること、学ばされることが多くありました。

子どもとのかかわり方だけでなく、人と出会うときの優しさは、視点の置き方が豊かなところからきているようでした。タイ南部は陸続きでマレーシアと、海伝いにミャンマーと接しています。最も多く津波被害を受けた三県にまたがる活動をしていましたが、その中にはムスリム、ミャンマー移民労働者、海の上に暮らす少数民族など、タイ族以外のマイノリティーの集落がありました。タイ社会の中で孤立しがちなグループであり、被災後も、支援を受ける状況に差が生じていました。



▲絵本普及活動の様子（南部ヤラー県で）。

素っ気ない態度をとられても、「仕方ないよ、タイの人につらく当たられたことがあるのかもね」、図書館に来たミャンマーの少年が本にいたずらをして、「きつと気にかけてほしいんだね、うちの親戚の子も一緒よ」と。相手が違う言葉や文化をもった人であっても、大変な境遇に想いをはせる視点が豊かなこと、それに伴う共感力に驚かされることが多くありました。当時まだタイ語がうまく話せなかった私が活動を継続できたのは、この活動へ

社会への諦めから、タイ人に対して拒絶反応を示す方も多くいました。それでも二人は笑顔で働きかけ、まずは相手を受け入れようとする姿勢があるのです。ムス

リムのおばさんに

のやりがいはもちろんですが、二人のしなやかで優しい共感力に助けられていたのです。

被災地で二年ほど過ごし、その後も各地での事業に携わった後、三人で団体を立ち上げることになるのですが、その経緯は、私たちをよく知る児童文学作家、村中李衣さんによる『マレットファン 夢のたねまき』（新日本出版社二〇一六年）で楽しくご覧いただけます。

交流から夢のたねを

経済発展を遂げたタイにおいて、全般的に教育への関心度は高まっています。富裕層においては早期教育に注力するあまり、親子共に疲弊し、相談を受けることがあります。また、行政の指導要領にとられない理想の幼児教育を目指し私立幼稚園を設立した三〜四十代の園長が、私たちの開催する研修に来てくださいます。中間層では、教育の質の地方格差や上意下達の伝統的価値観に沿った教育

システムに対する不満をもち、オルタナティブ・スクールや自宅学習を選ぶ保護者が増え、グループ研修を希望されることがあります。富裕・中間層とも、民間により、新たな教育観が模索されている最中のように見えます。一方、民族マイノリティーや移民などの貧困層においては、行政によるサポートが届かず、教育の質、量とも不足している状況がなお残ります。団体を設立して五年、富裕・中間層とも接する機会が増え、各グループの課題に気づくことになりました。課題もその解決策もさまざまですが、私たちができることとして、各グループへのアプローチと共に交流の場の提供が挙げられます。

違う環境、文化に触れて、新たに自分を発見すること、そこに交流の意義があることを実感してきました。「日本の保育を見て、自分が学んだ理論の実像がわかった、やっと本当のことを学生に伝えられる」と目を輝かせた幼児教育を教える大学の先生。「理想と現

状のはざままで奮闘する同業者に出会い、日本の現状を客観視できた」と熱く語ってくれた日本の保育士さん。タイ人と日本人で始めたマレットファンは、違いを包括し肯定する団体として、タイの、日本の子どもにかかわる大人同士が出会い、学びあうことで各自の内にある夢のたねを見つけるお手伝いをするこれが使命です。夢のたねを自分で発見し育てていこうと思える、そんなきっかけを生む活動を続けていきます。

いです。私の夢のたねも、初めてのタイで違う世界に触れたからこそ、見つけることができたのではないかと、二十年たつて振り返ってみています。



▲バンコクでの研修の様子。

園文化をデザインする ⑥

アウトドア気分で夏を演出！

中村 紘子
(小学校教諭)



Teepeeとは、アメリカインディアンの平原に住む部族が利用する移動式住居のことです。日本では「ティピー」とか「ティーピー」と呼ばれています。今回は、2,3人の子どもたちが入れる小さな Teepee テントの建て方をご紹介します。夏のお庭に建てれば日差しをさえぎる涼しい空間に...室内でも子どもたちにとってちょっとした秘密基地に...子どもたちとテントの飾り付けをするのも楽しいひとときです。

中村 紘子 (なかむら ひろこ)

小学校図工科講師。森のようちえんや木育を通した子育て支援に関心を持ち、千葉県にて木育おもちゃカフェの運営に携わる。

園にある見えるもの、見えないもの。子どもの体いつばいに降り注ぐ、大人からのメッセージ。

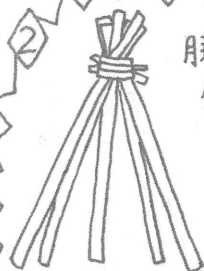
用意するもの

* 直径約3cm長さ約180cmの
木の枝または丸棒×5本

* ロープや麻ひもなど 丈夫なひも

* 大きめの布 (シーツなど)

Teepee テントの 建て方



脚になるほうを
少しずつ広げていき、
位置が定まったら、

上部をさらにひもでぐるぐる巻きにして
強度を高めておきます。滑りやすい床などに
建てる場合は脚の下に滑り止めを敷いたり
取り付けておくとより安全です。



木の枝の上から
15cmほどのところを
少し緩めに
ひもで縛ります。



3 布を上からかぶせて、入り口となる
部分の上部を内側からクリップで
留めたり、数針縫って固定します。

あとは自由に飾り付けて
楽しめます。霧吹きに入れた
色水を吹きかけて布を染めたり、
植物やフラッグガーデン (ひもに
旗の飾りを並べて付けたもの) で
飾るのもすてき!!



李基淑 (1976) Basic Study on Early Childhood Program models; a View from the Cognitive Oriented Curriculum. 幼児教育研究、1、63-78.

李基淑 (2015) 幼児教育課程. ソウル：良書院.

韓国行動科学研究所 (1980a) 模範幼稚園幼児教育運営要綱：幼稚園. ソウル：韓国行動科学研究所.

韓国行動科学研究所 (1980b) (模範幼稚園) 幼児用教育プログラム. ソウル：韓国行動科学研究所.

韓国子ども育英会 (1991) 韓国子ども育英会10年. ソウル：韓国子ども育英会.

韓国銀行編 (1995) 韓国銀行の統計：昨日と今日. ソウル：韓国銀行.

金ヨンオック、朴ヘキョン、ヤンオクスン (1977) 韓国現代幼児教育史.

金ヨンジュ (2004) 韓国幼稚園教育課程に対する分析：批判理論的接近と提案. ソウル：ムンウム社.

金ブンチョル (1989) 韓国教育政策研究. ソウル：教育科学社.

大韓教育連合会 (1966) 韓国教育年鑑. ソウル：韓国教育新聞社.

中央教育研究院 (1976) 幼児教育の現況と推勢. ソウル：中央教育研究院.

張ミキョン (1996) 韓国幼稚園教育課程の変遷研究. 慶熙大学校教育大学院修士学位論文.

成英恵 (1976) 幼児教育プログラム研究. 淑明女子大学論文集、16、237-258.

全ソンオック (1997) 韓国幼稚園教育課程の変遷課程. 梨花女子大学校大学院博士学位論文.

文教部 (1980) 文教統計年報. ソウル：文教部.

内務部 (1988) セマウル幼稚園白書. ソウル：内務部.

ヤンオクスン (2008) 幼児教育課程探求. ソウル：学知社.

◆研究論文を募集します◆

ー ピアレビュー (査読) の上、掲載しますー

本誌の巻末、横書き部分の「探究」ページに掲載する論文を募集します。

【テーマ】 子ども、保育、幼児教育に関するもの

【文字数等】 本文：400字詰め原稿用紙35枚程度 (写真・図表、文献、注を含む)。
本文はワード原稿で作成してください。編集上適宜対応しますが、投稿予定の方は下記のアドレスまでメールでご相談ください。

【締め切り】 随時募集します。

【送付先】 本誌編集委員会 Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

5. まとめ

これまで、1945年から1980年代までの韓国における幼児教育をめぐる政策と社会的変化を検討し、その中でカリキュラム・モデルの開発と普及がどのように展開されてきたか検討した。以上のことを踏まえ、次の2つの考察が考えられる。

第一に、韓国社会においてカリキュラム・モデルが強く求められた背景には、公立幼稚園やセマウル幼稚園などの政府主導の就学前施設の急速な量的拡大計画があったことである。幼稚園教育や終日制保育に関する蓄積された経験や専門家はもちろん、保育者養成システムも整っていない時期に、急速に量的な成長を図ろうとした韓国政府にとって、標準化されたカリキュラム・モデルは、なくてはならないものであったと考えられる。熟練していない保育者でも短期間で幼児教育ができるからである。その意味で、カリキュラム・モデルを開発し普及する仕組みは、幼児教育課程に対する保育者の自律性や創造性の能力を低く位置づけていたと考えられる。

第二に、カリキュラム・モデルの研究・普及という仕組みは、米国のヘッドスタートプロジェクトにおけるプログラム開発の理論より、そのアイデアを借りていたことである。政府より幼児教育課程の研究を委託された当時の団体や研究者は、共通して米国の学風に親近感をもっていたことは明らかである。韓国の幼児教育を最初に形作った彼らが、さまざまな幼児教育課程の理論を模索せずに、米国のプログラムの開発理論を唯一の理論として受容し、それをベースに韓国の幼児教育を構築してきたことは、韓国の幼児教育課程の理論と研究の発展的展開を狭める重要なことであったと考えられる。

本稿では1980年代までの韓国の幼児教育課程の発展の過程に注目したが、今後の課題として、「韓国の本格的な幼児教育の時代の到来」（丹羽、2003：19）といわれている1990年代以降の期間を検討し、現在の韓国の幼児教育課程の状況を把握することが残されている。

〈引用文献〉

- 丹羽孝（2003）韓国幼児教育の新時代－概要と当面課題。教育と医学 51（2），123－129。
李ウォンヨン（1981）ソウル教育史上。ソウル：良書院。

ム(1984)を作成・普及したが、現場において実質的な影響を及ぼしたのは新世代育英会(以下、育英会)⁷による教材やプログラムであった。幼児教育に関する専門家や予算に欠けていた文教部に比べ、ファーストレディーの李順子が会長を務めていた育英会は豊富な資金を持っていた。育英会は、模範・直営幼稚園の運営を始め、保育者研修、父母教育、学術研究の支援、それに加え、教材・教具・教育プログラムの開発に努めた。開発した教材・教具・教育プログラムは、全国公・私立幼稚園とセマウル幼稚園、4,500園へ無償で提供され普及していった(韓国子ども育英会、1991:271-272)。

特に、セマウル幼稚園のための幼児教育プログラムや終日制教育プログラムは、幼稚園の半日制プログラムが中心であった当時、幼稚園や終日保育の見本を強く求めていた現場の保育者に役立った。そして、幼児教育プログラムを専門的に開発する機関のなかったその当時、幼児教育を専門とする大学教授を中心とした研究チームによって構成された育英会のプログラムは、1980年代の韓国の幼児教育の最前線のものであったと言える。

表2 1980年代の代表的な幼児教育プログラム

韓国行動科学研究所		新世代育英会
【模範幼稚園】	幼児教育運営要綱(1980)	セマウル幼稚園のための幼児教育プログラム (1984)
【模範幼稚園】	幼児用教育プログラム(1980)	
【幼児教育資料】	幼児教育運営(1983)	父母教育プログラム(1985)
【幼児教育資料】	父母教育(1983)	5歳終日制教育プログラム(1986)
【模範幼稚園】	幼児教育プログラム(1984)	障害幼児教育プログラム(1986)
【幼児教育資料】	セマウル幼稚園運営指導書(1984)	特技教育プログラム(幼児文学・美術・音律) (1988~1989)
		2~3歳終日制教育プログラム(1990)

7 新世代育英会は1981年全斗煥大統領夫人の李順子によって設立された社団法人。設立以来、模範幼稚園、直営セマウル幼稚園の運営、教材・教具を1995年まで無料で普及、文教部より委託された幼児教育教員研修院の運営、父母教育などを主な事業とする。2006年からアイコレアに改称し現在に至る。

(http://www.aicorea.org/sub_intro/history.do/20180306 参照)

4. 1980年代：就学前施設の拡大と幼児教育プログラムの開発・普及

1980年代は、韓国の就学前施設が量的に急増し、5歳の就園率が57%にまで上がった時期である。この背景には、政府の積極的な政策的支援があった。政治的な正当性が欠如した全斗煥政権（1980～1988年）は、国民に目に見える成果を示す手段として幼児教育・保育の問題に着目し、1981年1月の大統領新年国政演説において就学前教育の重要性について言及し、幼児教育を拡大し普遍化する方針を示した。さらに、1982年3月には「幼児教育振興総合計画」が発表され、第5次経済開発5ヵ年計画（1982～1986年）の一部として「幼児教育拡大5ヵ年計画」が推進されるようになった。そして、同年12月には韓国の就学前施設の著しい増加に大きな影響をもたらした「幼児教育振興法」が制定された。

「幼児教育振興法」による大きな変化は、従来の多種の保育施設⁶がセマウル幼稚園に統合され、韓国の就学前施設は内務部管轄のセマウル幼稚園と教育部管轄の幼稚園に二元化されたことにある。セマウル幼稚園とは、共働きおよび低所得者の子どもの終日保育のため、全国の農漁村や貧困地域を中心に設置された施設である。幼児教育の振興政策は、全政権の特別な関心に後押しされた。セマウル幼稚園は「1986年まで1町に、1幼稚園を」というスローガンのもとに、1981年に263園だったのが6年後の1987年には2,422園にまで増加した（内務部、1988）。幼稚園も1981年の4倍近くまで増加した（教育統計、1988）。

「幼児教育振興法」では幼児教育の量的な成長だけではなく、教育の内容にかかわる質的な面に対する国の責任も定められ、「1. 幼児教育基本計画の樹立、2. 幼児教育の内容と方法の改善、3. 幼児教育のための教材・教具の研究・開発と普及」などが国家の任務（第3条）として明記された。これらの条項を根拠に、文教部は幼稚園とセマウル幼稚園における教材・教具および教育プログラムを開発・普及する責任を任された。

文教部は、韓国行動科学研究所に委託し、公立幼稚園向けの幼稚園プログラム（1984）や幼児用の動作活動（1983）、幼稚園向けの教育プログラ

6 1981年まで韓国の保育施設は、保健福祉部管轄のオリニジップ（託児所）と農村振興庁管轄の農繁期託児所、内務部傘下のセマウル協同幼稚園の3種に分かれていたが、幼児教育振興法の施行とともにこれらの保育施設はセマウル幼稚園（内務部）に統合された。

当時、文教部の教育課程審議委員であった朴ジュンヒ（梨花女子大学校初等教育科教授）は、文教部内には幼児教育の専門家がいなかったため、梨花女子大学校幼児教育科の李基淑教授と中央大学校幼児教育科の李ウォンヨン教授との協議の上、幼稚園教育課程の改訂を行った（全ソンオック、1997）。

一方、1970年代は、教育課程の研究に努めるもう一つの流れができはじめた時期でもあった。その流れをつくったのは、大学の保育科や幼児教育科の教授を中心とした幼児教育の学術団体であった。1975年4月中央大師範大学幼児教育科の李ウォンヨン教授を中心に「韓国幼児教育教授協議会」が構成され、1975年10月には梨花女大教育学科の李相琴教授を中心とした「韓国幼児教育学会」が設立された。翌年の1976年には「韓国幼児教育学会」の学会誌の『幼児教育研究』が創刊されるとともに、中央大保育科と梨花女大の幼児教育科に大学院が開設された。これらの大学や学術団体は、その後の幼児教育とカリキュラムの研究において重要な担い手となる。

以上のように、1970年代に盛んとなった韓国行動科学研究所と幼児教育関連の大学や学術団体による幼児教育課程研究であるが、この両者には大きな共通点があった。それは、彼らの注目した幼児教育課程研究の理論が、当時米国で流行していたヘッドスタートプロジェクトによる各種のプログラム開発のための理論であったことである。例えば、『幼児教育研究』の創刊誌（1976年）に掲載された幼児教育課程に関連する初の論文は、李基淑教授（1976）による「児童教育プログラムモデルに関する基礎的研究：認知方向的カリキュラムを中心に」であり、同年の徳成女子大学校教授の成英恵教授（1976）の論文も「幼児教育プログラム研究」となっている。そして、両者は同様に韓国の幼児教育課程の後進性を指摘しつつ、先進的な教育課程の理論として、米国のピアジェの認知的アプローチのプログラムをはじめとする各種のヘッドスタートプロジェクトで開発されたプログラムを紹介している。

このように、韓国の幼児教育に強い影響を与えた二つのグループが、米国のヘッドスタートプロジェクトにより開発された、発達心理学をベースにした各種プログラムの理論を韓国の幼児教育課程を研究する方法論として採り入れたことは、その後韓国の教育課程研究の方向を決定づける重要な事実であると考えられる。

1970年代の朴政権の幼児教育への関心の背景には国内外の事情もあった（金ゾン Chol, 1989）。まず、経済の進展により母親の就労化が進み、家庭教育の基盤が弱まり、既存の幼児教育の体制ではその需要が満たされなかった。そして、世界の先進諸国における幼児教育の発展と共に、北朝鮮における幼稚園1年を含む11年の義務教育化政策が韓国国内に知らされ、韓国の幼児教育の後進性を反省するきっかけとなった。

これらの影響を受け、朴政権は1976年新しい第4次経済開発5ヵ年計画（1977～1981年）と共に、幼稚園教育の拡大と公教育化を政策の基調として示した（韓国行動科学研究所、1980a：1）。そして、同年に初めて小学校併設の幼稚園が5園設置された。その後、韓国では公立幼稚園が急増し、1981年にはその数が1,922園となり、私立幼稚園の1,036園を上回った。

韓国の公立幼稚園の増設は、幼児教育課程の歴史においても大きな転機をもたらした。文教部⁴は、韓国史上初めて急増した公立幼稚園で使用できる教育課程を必要としたのである。当時1969年版の「幼稚園教育課程」はあったものの、「一般的な基準ばかり提示し、具体性と体系性が欠如していたため、実質的な指針になり難い」（成英恵、1976：15）と指摘されていた。それは、当時の保育者には、「幼稚園教育課程」のような目標や内容だけに基づいて保育が展開できるほどの高い専門性がもてなかったことに起因すると考えられる。

このような時、文教部は、早期児童教育のために国連児童基金（UNICEF）から受けた支援金を韓国行動科学研究所⁵に回し、新たな公立幼稚園で使用できるカリキュラム・モデルの開発を委託した。韓国行動科学研究所は、1978年から4年間のプロジェクトに着手し、現場の保育者がそのまま使える12か月・週5日分の具体的な活動計画案を作成した。これが、韓国初の公的資金を投じて作成された「幼児用教育プログラム」（韓国行動科学研究所、1980b）であり、その後の幼児教育プログラムの原型であると考えられる。

そして、同時期の1979年には、第2次幼稚園教育課程の改訂も行われた。

4 日本における文部科学省に当たる。現在、教育部と改称された。

5 1968年に設立された韓国の教育研究機関。1967年アメリカ政府の国際開発局と韓国文教部（現教育部）が共同で能力開発計画を遂行するため設立した適性研究センターがその前身。各種教育訓練プログラムや心理検査を開発し現在も活用中。

の教育的な機能は十分に発揮できなかった。」(金ヨンオックら、1995 : 84)。一部の幼稚園では大学や個人の著述した幼児教育関連書籍³を参考に教育内容を決めたが、大抵の場合、米国で開発された幼稚園の教育内容をそのまま踏襲し、その内容の開発過程を説明する資料は持たず、設立認可時に提示した教育内容がそのまま教育課程として通用していた(中央教育研究院、1976)。

要するに、1960年代までの韓国の幼稚園では政府の行政的規制や監督はもちろん教育内容に関する指導もない中で、自由に教育内容を決めていた。つまり、歌や踊り、絵画などの幼児教育固有の活動はあったものの、教育法によって定められた目標を意識した体系的な教育計画としての「教育課程」は存在していなかったと言える。従って、1945年から1960年代までを、韓国の幼児教育課程の不在期または潜在期と言うことができる。

3. 1970年代：幼稚園の公立化の試みと「幼児教育プログラム」の導入

1970年代の就園率はわずか2%程度で1960年代と比べてあまり変わらない(文教部、1980)。しかしながら、この時期は幼児教育課程の発展において重要な転換期となる。それは、従来政策や行政の外にあった幼児教育が、この時期に初めて政策の範囲に入り、公教育化が進んだことと関係がある。

1970年代に入って毎年経済成長率10%を記録していた朴正熙政権は、経済成長に対し強い自信感をもち、今後の国家の発展と経済成長における教育の重要性に関心を示した。この時期、政府の委託によって発表された報告書の『教育発展の課題と展望』(韓国教育開発院、1978年)は、政府の幼児教育に対する関心に火をつけた。この報告書では、1990年代の高度産業社会の到来を迎えて、能力の高い人材への需要が急増することを指摘しつつ、人間の発達における国民基礎教育の重要性を強調した。そして、幼児教育の機会の拡大や低所得層の優遇、公立幼稚園の設立などの政策を提案し、その課題として、「幼児教育の目標設定及び教育課程の再構成作業を推進すべき」と教育課程の改善に重きを置いた。

3 例えば、梨花保育学校(現梨花女子大学校)の『活動に基づいた児童保育法』(1933年刊行)、大田保育初級大学(現培材大学校)の附属幼稚園の『幼稚園教育案』(1960年刊行)、李榮甫の『保育一案』(1955年刊行)等がある(金ヨンオックら、1995 : 83)。

第146条 幼稚園は、幼児を保育し適切な環境を与えて心身の発育を助長することを目的とする。

第147条 幼稚園の教育は、前条の目的を実現するために次の各号の目標を達成するように努力しなければならない。

- 1) 健全で楽しい生活をするために必要な日常的な習慣を身につけ、身体のすべての機能の調和的発達を図る。
- 2) 集団生活を経験させて、楽しみ、これに参加する態度を育てながら、協同、自由、そして自律の精神を芽生えさせる。
- 3) 身の周りの社会生活と環境に対する正しい理解と態度を芽生えさせる。
- 4) 言葉を正しく使うように導き、童話・絵本等に対する興味を育てる。
- 5) 音楽、遊戯、絵画、手技、その他の方法により創作的表現に対する興味を育てる。

これらの条項は、幼稚園の目的と目標を提示したものであり、1969年「幼稚園教育課程令」（文教部令第207号）が定められるまでの間、幼稚園における教育内容を定める唯一の法的な規定となった。

1960年代に入ると朴正熙政権（1962～1979年）の強力なリーダーシップにより、経済開発の基盤がつくられ始めた。2度の経済開発5ヵ年計画に基づき、韓国の経済は徐々に成長し、1969年には国民1人当たりの所得が210ドルまで上がった（韓国銀行、2009）。幼稚園の設置に関する法的規定が設けられたのもこの時期である。1962年には「幼稚園施設基準令」（文教部令第106号）が公表され、1968年には幼稚園の授業料と入学金に関する定額表（文教部令第188号）が定められた。これらの規定により、文教部の教育財政が増え、幼稚園教育に対する関心も高まったのである（全ソンオック、1997：37）。

しかしながら、1960年代までの幼稚園に対する政府の関心は設置や財政などの外的な条件に限られ、教育の内容にまでは至らなかった。その理由として、1960年代の韓国の幼稚園が完全に民間の主導で発展していったことが挙げられる。1969年に全国の幼稚園の数はわずか459園であったが、その中に公立幼稚園は1園もなかったのである。当然、教育内容も民間が主導し、各幼稚園は「いくつかの幼稚園以外は大きく体系的な教育課程がなく、娯楽活動や小学校の準備教育および幼児の保護機能を中心に営み、幼稚園

はない者によって作成され標準化された教育計画とその内容のことで、韓国で「プログラム」として通用する概念と同様とする。

表1 韓国の保育・幼児教育関連の主な出来事（年表）

年代	大統領(執権期)	主な出来事
1945年～	李承晩(1948～60年)	1949年 教育法制定
1950年代		1950～53年 朝鮮戦争
1960年代	尹潽善(1960～62年)	1962年 幼稚園施設基準令発表
	朴正熙(1962～79年)	1969年 幼稚園教育課程令発表 (幼稚園教育課程制定)
1970年代		1975年 韓国幼児教育学会創立
		1976年 最初の公立幼稚園設立
		1978～81年 韓国行動科学研究所による 幼児用プログラム開発
		1979年 第2次幼稚園教育課程改訂
1980年代	全斗煥(1980～88年)	1981年 新世代育英会の設立
	盧泰愚(1988～92年)	1982年 幼児教育振興法制定

2. 解放後～1960年代：幼児教育課程の潜在期

韓国は、1945年第二次世界大戦の終戦とともに突然の独立を迎えた。3年間の米軍政期を経て1948年に大韓民国政府が樹立したが、朝鮮戦争（1950～53年）の勃発とともに韓国は極めて厳しい貧困と社会的な不安に陥った。1953年の韓国の国民1人当たりの所得は世界109位の67ドルであったのである。経済的な貧困から脱却するだけが課題であった韓国政府には、学校教育だけでも予算が足りず、当然幼児教育は国家の関心外にあった。

1950年代の幼稚園に関する法的な規定は、1949年に制定された「教育法」（法律第86号）の中の第146～148条であった。そのうちの第146条と第147条は次の通りである。

韓国解放後から1980年代までの幼児教育課程の発展過程

— カリキュラム・モデルの開発と普及に着目して —

林志妍*

1. はじめに

韓国の幼児教育の最も大きな特徴は、行政機関や個人・民間の団体によって提供されるカリキュラム・モデルいわば「幼児教育プログラム」(early childhood education programs)が各園の教育課程の作成において活用されるところにある。そして、保育現場において「プログラム」¹という用語は「教育課程」という用語と混用されている(李キスック、2015)。ところが、近年韓国では、「幼児教育プログラム」を中心とした教育課程の作成に対し、子どもの生活の脈絡と途切れやすいことからその問題を指摘する声が高まっている(ヤンオクスン、2008)。

韓国内での幼児教育課程の変遷に関する研究は多くあるが、その大半は韓国の国家水準の指針「幼稚園教育課程」の変遷を追って、米国の教育課程の変遷に照らし、分析を行ったものである。例えば、張ミキョン(1996)と全ソンオック(1997)は、1969年版「幼稚園教育課程」には経験中心主義が、第2次改訂の1979年版には学問中心主義、第3次改訂の1981年版には人間中心主義が反映されていると解釈している。しかしながら、金ヨンジュ(2004)が指摘したように、韓国の「幼稚園教育課程」は一貫して学問中心主義を反映しているとも考えられる。従って、欧米の教育課程の変遷の枠組みでは、韓国独自の幼児教育課程の変遷が捉え難いと思われる。

そこで、本稿では、韓国独自の幼児教育課程の変遷を説明する上で、カリキュラム・モデルの開発と普及という特徴に着目した。本稿では、1945年韓国解放後から1980年代までの韓国の保育・幼児教育の政策と幼児教育課程²の発展過程を歴史的に検討し、韓国におけるカリキュラム・モデルがどのように導入・定着していったのか明らかにすることを目的とした。なお、本稿でいうカリキュラム・モデルとは、カリキュラムを実践する保育者で

* (いむ じよん) お茶の水女子大学大学院後期課程学生

1 本稿における用語「プログラム」は、英語 program を英語の発音どおりハングルで表記した「프로그래ム」を日本語に訳したものである。

2 本稿では日本で通常「カリキュラム」として指す内容を「幼児教育課程」と表記する。それは、韓国では「カリキュラム」という言葉があまり使用されておらず、また就学前の施設での営みを「保育」より主に「幼児教育」として表現するからである。



◆ナーサリーこぼれ話◆

「不敵な(?)おさんぽ」 7月27日木曜日くもり

ほしぐみ…0歳児と1歳児の低月齢児 3名
にじぐみ…1歳児の高月齢児と2歳児 7名

連日の灼熱の太陽も勢いを弱め、久しぶりに体がほっと一息つけるような気風の、7月下旬のある朝のこと。2歳児を見ている保育士Hさんと、朝の身支度が一緒になって、おしゃべりをする。「来る途中に、大々的に建築作業をしている工事現場があって、毎朝毎晩、様子が変わるんだけど、道に面した巨大なシャッターが開いていたの。どうやら、工事車両が出入りをする日なんじゃないかと思うんだ。(子どもたちが)歩いて行くにはちょっと遠いかな……」とHさん。

なるほど子どもたちは、『はたらくるま』の絵本を好んで見ているし、ブロックで作ったりすることもある。重さも大きさも相当な実物がリアルに仕事をするところを、子どもたちにぜひ見せたいという「担任ごころ」らしい。しかし……。

その工事現場は、2歳の足にはかなりの負担と思われる坂を下りきり、大きな通りの横断歩道を渡って、別の急坂を登りきった先にある。大人の足でも優に15分はかかる。比較的しのぎやすいとはいえ、夏の昼間にそこに向かうことが、果たして2歳児の夏場の活動として適するかどうか。

それでも、私(主任)は、判断を迷わなかった。「これは願ってもないチャンス!」と思う担任の勘を信じ、「見せたい、見たら絶対喜ぶはず!」という願いをくむことにした。

涼しいうちに行ってしまうと、メンバーがそろったら早々に出かけることにした。その日、2歳児は男女児2名ずつの4名のみの登園。「大きなクレーン車、見に行くと、4人にそっと声をかけ、散歩支度を促す。子ども4人と保育士Hさん、Oさんの6人でいざ出発! ……と思いきや、お出かけを察知した1歳女児のMが、われ先にと帽子をかぶり、必死で靴下を履こうとしている。支度を焦

りながらも、置いて行かれてるものか! と、保育士をぐぐっと見据える様子には、気迫すら感じられる。こんな人のかことを、一体誰が置いていけるというのか。歩き始めてわずか1月ほどのMは、果たして、私の押すベビーカーで、年長の子どもたちに堂々と同行することと相成る。

歩く道々、ベビーカーのすぐ前を歩く女児が「うんうん。ちゃんと来てるね。一緒だね」と言うように私とMとをうれしそうに何度も振り返る。子どもたちは、本当によく歩いた。そして、ある子は、持ってきた『はたらくるま』の絵本と実物の工事車両とを見比べながら、ある子はクレーン車に夢中になりながら、またある子は、何度も何度も出入りするミキサー車の動きに魅了されながら、道端での見学時間を思い思いに過ごした。それから同じ道を、手をつないでゆらゆらと、あるいはベビーカーに揺られて、マンホールアートの目を奪われたり花壇の花やチョウに感謝したりしながら、ナーサリーに戻った。

その時の様子を撮った数少ない写真や堂々たる工事車両の切り抜き写真をフィルム加工して、担任が写真絵本を作った。Mはそれをその後、繰り返し繰り返し人に見せて、自分の名前を意味する「み、み!」と言ってベビーカーの写った写真を「ここにあたしがいるのよ!」と指さし、「Mちゃん、工事の所、行ったんだもんね」と言われては、そのたび鼻高々だったことは言うまでもない。

(主任保育士 K)



ひろば

お便り

POST

◆私の「カルチャー・いんふお」◆

まずは外国のアニメ映画をご紹介します。
『ぼくの名前はズッキーニ』（スイス・フランス 2016 年 C. バラス監督）。自称ズッキーニ
ことイカールは9歳の男の子。ビールを手に
テレビの前から動かない母親がある出来事から
亡くします。後悔の念が頭から離れない彼
を児童養護施設に連れてきたのは、取り調べ
を担当した警官レイモン。ホームシックあり、
いじめあり、子どもたちの中の嫉妬心あり、
いたずらもありの場所で、次第にお互いを理
解していく彼女たち。なんといっても、
およそかわいいたいと言えない子どもたちのキ
ャラクター、顔がとってもチャーミング。児
童虐待や施設の生活を人形アニメにしまし
まうフランス。フランス語の響きがまた楽しい
作品です。

次は本のご紹介です。『孤宿の人』（宮部み
ゆき 新潮文庫 2009 年）。時は江戸の末期。
母を亡くした引手（同心の補佐。岡っ引き）
見習いの17歳の少女宇佐と、江戸からの金
比羅参りの途中で置き去りにされた9歳の少女
ほう。二人は瀬戸内の海辺の町、丸海で出会
い、姉妹のように慕い、しかしそれぞれの運命
に翻弄されます。丸海藩は江戸幕府の重罪人、
元勘定奉行船井加賀守守利の身を引き受けさ
せられ、幽閉します。ところが家族殺しの極
悪人のはずの加賀様に、ほうは幽閉先で下働
きとして出会い、娘のように愛され手習いを
仕込まれます。ほうの身の上を心底心配する
宇佐もまた周囲の人々に愛される天涯孤独の
娘。少女二人と丸海藩の不穏な行方が平行し
て描かれ、サスペンスのように物語が進みま
す。とっつきにくい時代ものというジャンル
ですが、登場人物の心情が丁寧に描かれた大
作です。小説ですが、讃岐丸亀藩と鳥居耀蔵
氏との史実がモデルになっています。（AK）

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム 「変革期の乳幼児教育・保育を考える」 平成 30 年度 後学期（10 月開講）受講生募集

現職保育者や一般の社会人対象の集中講義を開講
します。受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」
として登録され単位が認定されます。
*男性も受講可能です。

【開講科目】

- ・「乳幼児の世界Ⅰ」（1 単位、集中講義）
担当：宮里暁美
- ・「乳幼児教育論Ⅴ」（1 単位、集中講義）
担当：未定

【出願期間】平成 30 年 7 月下旬

【URL】<http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

【E メール】nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

【TEL】03-5978-5998（担当 内海）

◆お茶の水女子大学附属幼稚園 【英語版】研究紀要 出ました◆

【英語版】研究紀要『Children's Inquiring
Mind and Usability in Life: 'Tools'
Grasp, Choose, Use』（2013 Research
Bulletin）を刊行しました。カラー写真満載
の全 30 ページ。海外の幼児教育関連機関へ
の発信の一助になればと願っています。

平成 25 年度研究紀要「探究力・活用力が
発揮される生活（2 年次）『道具』持つ・選ぶ・
活かす」（日本語）も残部がございます。

お問い合わせは、お茶の水女子大学附属幼
稚園 FAX 03-5978-5882 または、
e-mail: ochayou@cc.ocha.ac.jp まで。

編集後記

新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼
保連携型認定こども園教育・保育要領」の体制とな
って数か月がたちます。保育や教育に生じている「変
わる」「変わらない」「変える」「変えない」といった
実際は、これから「見えてくる」のだと思います。
それらは、「虫の目」「鳥の目」「魚の目」「コウモリ
の目」など、多様な立場のさまざまな視点から見
ることで、より深く捉えることができるのかもしれま
せん。本誌を手にとってくださった読者の皆様とも、
対話ができましたらありがたい限りです。

今号の特集では、要領・指針の改訂をテーマに座
談会を行いました。アーカイブズには、原口純子先
生による1989(平成元)年の幼稚園教育要領改訂時

の記事を取り上げました。110年以上続く本誌の、
数多くある記事の中では比較的新しい時代のもので
すが、それでも約30年の時を経ています。文章と
いう形で遺されることによって、過去から未来へ
伝えられる事実や思考の足跡があります。私たちが
それらを受け取り、学ばせていただくことは少なく
なく、多くの可能性が含まれているように思います。

前号から装い新たになった『幼児の教育』。今号か
ら研究論文も掲載されました。新しい一歩を歩み始
めた本誌が、「子ども学の源流を次世代につなぐ」理
念を実現し、現代と、そして未来の保育・幼児教育
にも生かされ得るように、私も多角的な視点をもっ
て編集に携わっていきたいと思います。(MN)

次号予告 幼児の教育 秋号 2018年10月刊行予定

新企画も好評! 充実した内容でお届けします。

- ◇ 保育の「根本考察」にチャレンジ! 7
親と保育者が共に育つ
- ◇ 日本発育発達学会第16回大会シンポジウム
「保育から考える幼児の元気な身体」についての報告 水村真由美氏
- ◇ 見えない子どもたちがはじめて出会う絵本 攪上久子氏

※タイトル・内容が変更になる場合もあります。

幼児の教育 夏号 第117巻 第3号

平成30年7月1日発行

編集発行人／浜口順子

編集担当／田中恭子

発行所／お茶の水女子大学

『幼児の教育』編集委員会

〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学

浜口順子研究室内

youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

発売所／株式会社フレーベル館

電話：03-5395-6604 (編集)

振替／00190-2-19640

印刷所／図書印刷株式会社

定価／本体880円＋税

©お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会

2018 Printed in Japan 無断転載禁止

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

編集委員／上坂元絵里

菊地知子

松島のり子

宮里暁美

お茶大3園合同研究会

(附属幼稚園、

いずみナーサリ-

文京区立お茶大こども園)

編集協力／フレーベル館

● ご購入のお問い合わせは、フレーベル館までお願いします。03-5395-6613 (営業) ●

フレーベル館 110 周年企画

倉橋惣三を旅する
小さな太陽

倉橋惣三・言葉 小西貴士・写真
大豆生田啓友・選

今も昔も変わらず子どもたちは「小さな太陽」であり、私たちの「希望」一。『育ての心』他の倉橋惣三の詩情豊かな子ども観を、『保育ナビ』表紙でおなじみの小西貴士氏の写真でイメージ化しています。ゆっくりページをめくりたい1冊です。

全48ページ 26×18cm

定価 本体1,300円＋税 109-67 ISBN978-4-577-81429-1



子どもの健気な姿や、ユーモア溢れる姿が立ち現れると、ふっと吹き出してしまい、「ま、いいか」と思えることもあるものです。ちょっと見方を変えてみると、私たちの毎日は、彼らに元気づけられていることに気づかされるのです。

大豆生田啓友
解説より

「小さな太陽」— それは、私たちの希望なのです。

新3法令の 公式解説書

平成29年3月に改訂・定、告示された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の公式解説書。オール2色の読みやすい誌面で、押さえておきたいポイントが理解しやすくなっています。

付録として、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」全文および「学校教育法」等の関連法令（抜粋）も掲載しています。幼稚園教諭・保育士・保育教諭はもちろん、養成校・行政関係者等、必携の3冊です。



文部科学省／著
全384ページ 21cm×15cm
定価 本体 240円＋税
351-11 ISBN978-4-577-81447-5



厚生労働省／編
全472ページ 21cm×15cm
定価 本体 320円＋税
354-11 ISBN978-4-577-81448-2



**内閣府・文部科学省・
厚生労働省／著**
全486ページ 21cm×15cm
定価 本体 350円＋税
345-31 ISBN978-4-577-81449-9

定価 本体八八〇円＋税